

第4章 現在の職業生活とキャリアガイダンス・ニーズ

1. 本章の目的

本章では、現在の職業生活を示す正社員等といった現在の立場や、年収・職種等の変数と、キャリアガイダンス・ニーズの関連性について分析結果を報告する¹。

キャリアガイダンス・ニーズは、ガイダンスの受益者であるユーザー側の自覚の程度によって大きく二つに分けられる。一つは、利用者にとって現在自覚のあるニーズ（顕在ニーズ）であり、もう一つは、現時点では自覚がなかったり、必要性を感じていないが将来的にニーズとなりうるもの（潜在ニーズ）である。前者は、職業やキャリアに関して現在問題を抱えている程度やその内容をとらえることで、内容を分析できる。後者は、職業やキャリアに関する課題や悩みを将来抱えたと想定し、どんな条件でどんなサービスが必要なのかという回答を分析することで、大まかな傾向を把握できると考えられる。本章では、この二つのガイダンス・ニーズについて、それぞれ分析結果を報告する。最後に、以上のニーズを背景としたキャリアガイダンス・サービスについて、利用上困難に感じる点について整理し、今後のガイダンス・サービスのあり方へ向けた課題をまとめとして提示したい。

本論に入る前に、本章のタイトルにある「現在の職業生活」を示す調査対象者層について触れておきたい。本調査の中で、現在の職業生活を最も端的に示す属性は「現在の立場」（問18）である。一部のカテゴリの回答数に偏りがみられたことから、本章の分析においては図表4-1にある通り一部のカテゴリを集約して分析を行った。²さらに、一部の分析では、現在の職業生活を示す他の変数として、年収（個人年収・世帯年収）、職種についても取り上げることにした。

図表4-1 本章で使用した「現在の職業生活」を示すカテゴリ名

新カテゴリ名	問18の選択肢(群)	N
1 正社員	1. 正社員・正職員	2287(男性1604, 女性683)
2 非正社員	3. 契約社員・嘱託 4. 派遣社員 5. パートまたはアルバイト	586(男性125, 女性461)
3 自営業	2. 自営業・自由業 6. 家族従業員	340(男性192, 女性148)
4 専業主婦(非求職)	7. 専業主婦(主夫)で今は仕事を探していない	505(男性1, 女性504)
5 専業主婦(求職中)	8. 専業主婦(主夫)で仕事を探している	199(男性1, 女性198)
6 無業(非求職)	12. 無職で何もしていない	51(男性18, 女性33)
7 無業(求職中)	11. 無職で仕事を探している	83(男性34, 女性49)
8 求職中(主婦+無業)	8. 専業主婦(主夫)で仕事を探している 11. 無職で仕事を探している	282(男性35, 女性247)
9 その他	9. 大学院や専門学校などの教育機関に在学中 10. 無職で進学や留学などの準備 13. その他	55(男性19, 女性36)

¹ 現在の就業状況別の分析は前章でも行っているが、本章では、その他の変数も含めてより詳細に分析を行った。前章の結果は現在の就業状況に関する大まかな分析、本章の結果はその背景まで含めた詳細分析という観点からご覧いただきたい。

² ただし、「求職中(主婦+無業)」と「その他」のカテゴリについては、分析内容によって掲載を割愛している箇所もある。

2. キャリアガイダンスに関する顕在ニーズの分析

本節では、調査対象層が自覚しているキャリアガイダンス・ニーズ（顕在ニーズ）に絞って報告する。

まず、ニーズの根底にある問題意識とその内容について検討する。さらに、問題に対する支援やサポートの必要性をどの程度感じているのか、過去のどのような時にサポートを受けたいと思ったのか等についても検討する。

（1）キャリアに対する問題意識と具体的な問題内容

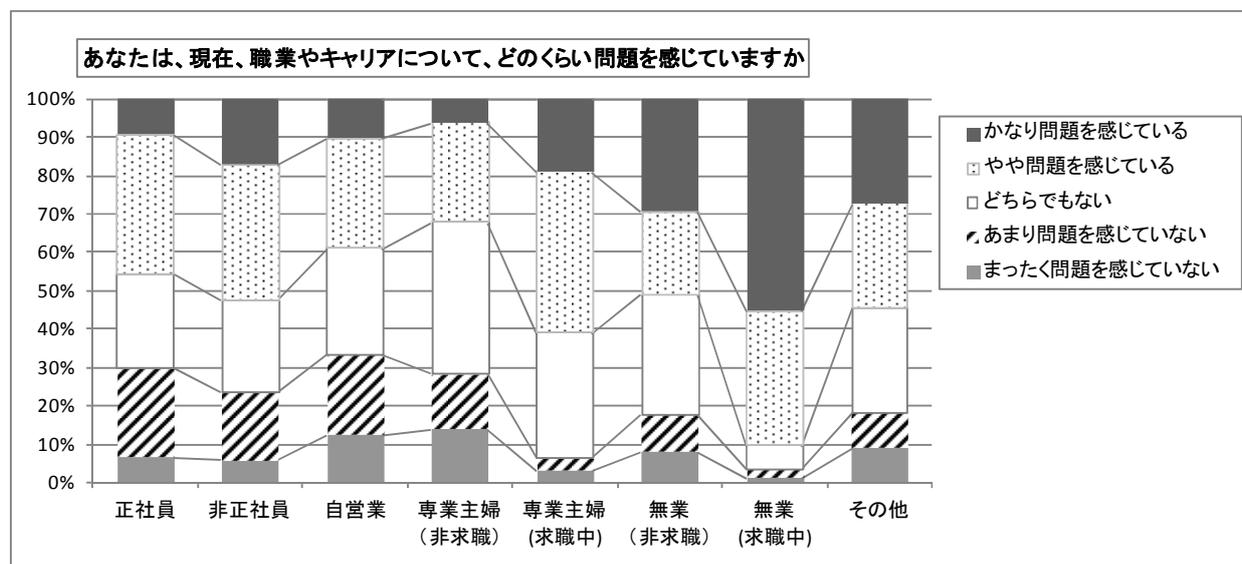
図表4-2、4-3は、現時点でキャリアに対する問題をどの程度感じているか（問24）についての回答結果である。全般としては、無業層、特に求職中の無業層が問題を強く認識しているという現状が現れている。また、求職中の層（専業主婦と無業）は、求職中でない層と比較すると問題を強く認識している傾向がある。非正社員についても、正社員と比較した場合に、「かなり問題を感じている」と回答する程度が有意に高かった。

図表4-2 キャリアに対して現在問題を感じる程度

	正社員	非正社員	自営業	専業主婦 (非求職)	専業主婦 (求職中)	無業 (非求職)	無業 (求職中)	その他	合計
かなり問題を感じている	9.5%	17.3%	10.4%	6.2%	19.0%	29.4%	55.4%	27.3%	12.1%
やや問題を感じている	36.2%	35.3%	28.7%	25.9%	42.1%	21.6%	34.9%	27.3%	34.1%
どちらでもない	24.6%	24.1%	27.5%	39.6%	32.8%	31.4%	6.0%	27.3%	26.8%
あまり問題を感じていない	23.1%	17.5%	21.0%	14.3%	3.1%	9.8%	2.4%	9.1%	19.3%
まったく問題を感じていない	6.7%	5.8%	12.4%	14.1%	3.1%	7.8%	1.2%	9.1%	7.7%

注：網かけは正社員の列を基準とした場合に、5%水準で有意差があるカテゴリを示す。

図表4-3 キャリアに対して現在問題を感じる程度(グラフ)



さらに、キャリアに対する問題意識に影響を及ぼす背景要因を探るため、問24（問題意識）を従属変数としたステップワイズ法による重回帰分析を各対象層別を実施した（図表4-4）³。結果の全般的な傾向として、「現職からの転職」（問42）を強く希望している場合や、職業生活への満足度（問40）が低い場合に、キャリアへの問題意識を感じやすい傾向が明らかになった。なお、対象層別の特徴をみると、無業層では配偶者がいない場合（問5）に問題を感じやすく、就業者層（正社員、非正社員、自営業）では、キャリアに対して具体的な行動（問28）を起こしている人ほど、キャリアへの問題意識を感じている傾向が現れている。

図表4-4 キャリア問題意識に対する重回帰分析(対象層別)

	正社員		非正社員		自営業		専業主婦 (非求職)		専業主婦 (求職中)		無業 (非求職)		無業 (求職中)		求職中 (主婦+無業)	
	β	sig.	β	sig.	β	sig.	β	sig.	β	sig.	β	sig.	β	sig.	β	sig.
転職希望	.395	**	.340	**	.391	**	.277	**	.383	**	.322	*			.301	**
職業生活への満足度	-.300	**	-.313	**	-.316	**	-.236	**	-.208	**					-.166	**
具体的な行動の程度	.128	**	.163	**	.151	**										
思考タイプ自律性	-.109	**	-.088	**												
配偶者の有無 ^(※)	-.040	*									-.327	*	-.303	*	-.249	**
話す人数(職場外)	-.035	*			-.148	**							-.269	*		
配偶者が家計負担 ^(※)			-.151	**												
最終学歴			.068	*												
卒業後正社員で就職 ^(※)					-.157	**										
個人年収					-.127	**										
年齢					.114	*										
特定分野で一つの 職業経験 ^(※)							-.088	*								
卒業後無職 ^(※)									.152	*	.317	*				
転職回数													-.233	*		
R^2	.418		.488		.429		.166		.219		.411		.208		.250	

** $p < .01$, * $p < .05$ (※)はダミー変数として投入

次に、キャリアについて感じている問題の具体的な内容（問25）を整理した（図表4-5）。全般的に問題として挙げられていたのは「将来全般について」（合計39.83%）であった。対象層別にみると、正社員層では、将来全般のほか、自分の職業能力の向上を問題としていた。非正社員層では、将来全般に次いで問題を感じているのは自身の労働条件や働き方についてであった。専業主婦の求職層の場合、働き方や自分の就職についてが最大の関心事であることが示されていた。無業の求職層では、自分の就職や将来全般への問題を感じていることに加え、自分の職業の向き不向きについても問題を感じていることが明らかになった。一方で、専業主婦の場合は求職中の場合も含めて将来全般について問題を感じている割合が低く、非求職中では「特になし」という回答が最も多かった。以上のことから、調査対象者全体としては将来全般への問題や労働条件、働き方などに問題を感じていることが示されているが、対象層別にみると各自の置かれた環境や立場によって、問題の感じ方の濃淡がそれぞれ異なっていることが明らかとなった。

³ 図表4-4で扱った各変数のほか、本章で扱う全ての変数は、程度が強まるほど数値が大きくなるように方向性をそろえている。例えば、転職希望の標準偏回帰係数が正の値の場合、転職希望が強まるとキャリアに問題意識を感じる傾向があることを示している。なお、「思考タイプ自律性」（問27）は調査票の回答値を反転させておらず、キャリアに対する考え方で自律性の程度が高いほど値が大きくなるようにしている。

図表4-5 キャリアに対して感じる具体的な問題の内容

	正社員	非正社員	自営業	専業主婦 (非求職)	専業主婦 (求職中)	無業 (非求職)	無業 (求職中)	その他	合計
将来全般について	42.5%	44.4%	48.7%	19.2%	24.7%	45.1%	51.8%	42.6%	39.8%
自分の就職について	4.0%	15.7%	4.2%	15.4%	37.6%	33.3%	73.5%	35.2%	10.9%
就職活動の仕方について	2.3%	5.0%	2.4%	8.0%	17.5%	17.6%	33.7%	14.8%	5.1%
自分の職業の向き不向きについて	12.4%	11.6%	5.9%	9.6%	14.9%	17.6%	41.0%	25.9%	12.3%
自分の労働条件について	25.2%	32.0%	11.9%	14.2%	33.5%	7.8%	21.7%	27.8%	23.9%
自分の仕事の内容について	21.7%	16.4%	11.6%	5.2%	15.5%	5.9%	10.8%	13.0%	17.3%
自分の職業能力をアップさせる方法について	22.6%	17.3%	14.5%	6.6%	14.4%	5.9%	26.5%	22.2%	18.7%
自分の働き方について	15.2%	28.0%	17.2%	24.4%	41.2%	13.7%	31.3%	35.2%	20.1%
職場の同僚との人間関係について	9.1%	8.5%	1.5%	0.8%	6.7%	3.9%	9.6%	5.6%	7.2%
職場の上司との人間関係について	13.3%	6.5%	1.8%	0.4%	4.1%	2.0%	8.4%	7.4%	9.0%
職場の部下との人間関係について	4.4%	1.5%	1.2%	0.2%	1.5%	0.0%	3.6%	3.7%	3.0%
職場外の人との人間関係について	2.2%	1.5%	1.5%	0.8%	2.1%	2.0%	3.6%	5.6%	1.9%
自分の家族について	7.8%	10.9%	12.2%	15.2%	24.2%	11.8%	13.3%	20.4%	10.6%
身近な法律的な問題について	1.1%	1.9%	2.7%	0.4%	2.6%	0.0%	3.6%	1.9%	1.4%
身近な健康問題について	9.2%	11.1%	16.0%	8.2%	12.4%	25.5%	19.3%	27.8%	10.7%
いわゆる悩みやグチなどについて	5.8%	6.8%	3.6%	1.0%	1.0%	5.9%	8.4%	5.6%	5.0%
誰にも話せない深刻な悩みについて	2.2%	2.6%	3.0%	0.8%	2.6%	7.8%	8.4%	9.3%	2.5%
その他	1.7%	0.9%	2.4%	0.6%	0.5%	0.0%	2.4%	0.0%	1.4%
特になし	16.2%	16.4%	24.0%	41.1%	12.9%	23.5%	1.2%	16.7%	19.6%

注：網かけは正社員の列を基準とした場合に、5%水準で有意差があるカテゴリを示す。

(2) キャリアに関する支援・サポートの必要性に関する認識

前項ではキャリアに対する問題意識とその内容について整理した。続いて本項では、そうした問題に対する支援・サポートの必要性をどう認識しているかについて、現時点におけるニーズ、過去におけるニーズの両面から検討する。

図表4-6は、現時点におけるニーズである、「これからの職業やキャリアの問題を解決する上で、どのくらい支援やサポートが必要ですか」（問26）の回答結果である。全般的に、必要と回答する人の割合が多い（「かなり必要」＋「やや必要」の合計で42.16%）中で、対象層別の特徴が特に現れているのは、求職者層（主婦、無業）と無業層（非求職、求職含む）であり、これらの層では支援の必要性を強く訴えている。正社員だけでなく、非正社員、自営業といった就業者層の割合と比較した場合、「かなり必要」と回答する割合はこれらの層で非常に高くなっている。

図表4-6 職業・キャリアの問題解決のために、支援やサポートが必要か

	正社員	非正社員	自営業	専業主婦 (非求職)	専業主婦 (求職中)	無業 (非求職)	無業 (求職中)	その他	合計
かなり必要である	6.4%	9.7%	5.3%	8.0%	14.6%	25.5%	44.6%	20.0%	8.6%
やや必要である	32.4%	37.9%	24.9%	35.7%	48.5%	25.5%	36.1%	23.6%	33.6%
どちらともいえない	35.7%	35.2%	40.7%	36.9%	33.3%	33.3%	18.1%	40.0%	35.7%
あまり必要でない	19.6%	13.7%	22.0%	11.2%	3.0%	3.9%	1.2%	10.9%	16.4%
まったく必要でない	5.9%	3.6%	7.1%	8.4%	0.5%	11.8%	0.0%	5.5%	5.7%

注：網かけは正社員の列を基準とした場合に、5%水準で有意差があるカテゴリを示す。

一方でもう一つの傾向として興味深いのは、前項でキャリアに関する問題を「特になし」と回答する割合が多かった専業主婦層が、支援・サポートの面では「あまり必要でない」という回答が就業者層と比較すると低い点である。一見矛盾した結果のように見えるが、この背後には様々な可能性が含まれると思われる。非求職の専業主婦層は現時点で仕事に就く意思はないが、将来的に必要なかもしれないと考えていてサポートを望んでいる可能性があるほか、例えば子育て支援など、キャリアガイダンスが従来扱ってきた範囲からやや外れる支援やサポートについての必要性を回答した可能性もあると考えられる。

次に、過去における支援ニーズである、「学校を卒業してからこれまで、過去のどのような時に、職業やキャリアに関する支援やサポートが必要であると感じましたか」（問23）の回答結果を整理した（図表4-7）。正社員では、転職時に労働条件の良い職場への転職や、やりがいのある仕事を見つけるための支援やサポートを必要としたことが示されている。また、職場内での異動、トラブル、仕事内容が変わった時等のサポートを他の層と比べて多く求めているのも正社員の特徴として挙げられる。非正社員の場合、正社員と同様に転職時にサポートの必要性が高い結果であったが、さらに加えて非正社員から正社員へ転換時の支援や、育児と仕事との両立時の支援やサポートも必要としていた。非就業者層で特徴的だったのは、主婦層（求職中を含む）で家庭や育児との両立を目指そうとしたときの支援やサポートの必要性が他の層と比較して非常に高かったことである。また、求職中の無業層の場合、倒産やリストラによる転職時に支援やサポートを必要としたとの回答が他の層と比べて高い点も特徴的であった。

図表4-7 過去に職業・キャリアの支援・サポートを必要を感じた場面

	正社員	非正社員	自営業	専業主婦		無業		その他	合計
				(非求職)	(求職中)	(非求職)	(求職中)		
【転職関連】									
より労働条件の良い仕事に転職したいと思った時	41.0%	45.8%	34.0%	24.8%	30.1%	15.7%	36.1%	27.3%	38.0%
やりがいのある仕事に転職したいと思った時	29.8%	28.3%	31.0%	20.4%	23.5%	21.6%	32.5%	29.1%	28.2%
人間関係などの問題があって転職したいと思った時	21.4%	26.2%	18.7%	18.0%	25.5%	25.5%	30.1%	23.6%	21.9%
倒産やリストラがあって転職せざるをえなかった時	17.8%	23.5%	19.6%	12.4%	17.9%	13.7%	44.6%	18.2%	18.6%
【職場関連】									
職場でトラブルがあった時	18.9%	21.3%	17.2%	15.0%	16.8%	35.3%	21.7%	32.7%	19.0%
職場で配置転換や部署の異動があった時	18.3%	8.7%	8.4%	7.4%	9.7%	7.8%	10.8%	7.3%	13.9%
職場で仕事の内容が変化した時	18.0%	14.4%	13.6%	10.8%	16.3%	13.7%	13.3%	10.9%	15.9%
職場で将来の方向を定めたいと思った時	18.4%	12.2%	15.4%	6.6%	11.7%	3.9%	16.9%	16.4%	15.2%
【家庭関連】									
結婚して家庭を持つとした時（家庭をもった時）	10.5%	18.7%	11.1%	26.1%	30.1%	3.9%	7.2%	21.8%	14.6%
子どもが生まれたり、育児の問題が生じた時	16.6%	26.8%	18.4%	36.9%	45.9%	9.8%	6.0%	23.6%	21.9%
子どもの手が離れた時	2.7%	17.5%	3.9%	24.8%	44.4%	2.0%	4.8%	12.7%	9.8%
配偶者と離婚や死別した時	5.3%	12.5%	9.0%	11.4%	14.3%	11.8%	4.8%	10.9%	8.0%
【その他】									
学校を卒業後、自分で最初の仕事を見つけないと思った時	22.2%	20.9%	22.9%	28.7%	28.1%	17.6%	30.1%	34.5%	23.4%
ある程度の年齢になって定職に就きたいと思った時	8.4%	26.4%	16.0%	18.2%	24.5%	31.4%	50.6%	27.3%	15.0%
非正社員から正社員になりたいと思った時	10.3%	28.1%	11.1%	12.8%	16.3%	17.6%	32.5%	21.8%	14.3%
友人や知人に就職の相談をされた時	3.2%	2.6%	5.4%	2.6%	4.6%	3.9%	1.2%	0.0%	3.2%
その他	3.8%	2.1%	7.8%	5.4%	0.5%	11.8%	2.4%	10.9%	4.1%

注：網かけは正社員の列を基準とした場合に、5%水準で有意差があるカテゴリを示す。

(3) キャリアに関して具体的な行動を起こす程度

前項までの分析では、キャリアに対する問題意識や支援の必要性について整理したが、実際のところ、それらの問題に対して本人がどの程度行動を起こしているのだろうか。本項ではキャリアに関する問題に対して行動を起こしている程度（問28）について検討した（図表4-8）。その結果、専業主婦層で「まったく行動していない」割合が非常に高いことが判明したが、この層は前述の図表4-5で、キャリアに対する具体的な問題性を感じていない割合が高い層でもあり、その部分が反映したものと考えられる。一方で、求職中でない無業層も、「まったく行動していない」率が高かったが、この層は専業主婦層と異なり、キャリアに対して問題を感じる割合（図表4-2）が高かったり、将来全般について問題だと感じている（図表4-5）層であり、本質的にはキャリアに向けた行動を起こした方が良い層だと考えられる。したがって、キャリア支援の提供側には無業層が具体的に行動するきっかけとなるような支援やサービスが望まれるのではないかと考えられる。

図表4-8 これからの職業やキャリアに向けて具体的に何か行動していますか

	正社員	非正社員	自営業	専業主婦 (非求職中)	専業主婦 (求職中)	無業	無業 (求職中)	その他	合計
かなり行動している	3.2%	2.6%	3.9%	0.8%	3.5%	0.0%	12.0%	12.7%	3.2%
ある程度行動している	24.0%	23.7%	29.2%	7.0%	31.3%	13.7%	53.0%	27.3%	23.1%
どちらともいえない	24.0%	25.6%	24.7%	11.5%	26.8%	7.8%	12.0%	25.5%	22.5%
あまり行動していない	26.6%	26.1%	23.5%	29.2%	26.8%	25.5%	19.3%	14.5%	26.3%
まったく行動していない	22.1%	22.0%	18.8%	51.5%	11.6%	52.9%	3.6%	20.0%	24.9%

注：網かけは正社員の列を基準とした場合に、5%水準で有意差があるカテゴリを示す。

キャリアに関して具体的な行動を起こす程度は、就業への緊要度や、キャリアに関する支援サポートの必要性が高いかどうかという要因だけでなく、その個人がそもそも身軽に行動を起こしやすいかどうかという内的な個人特性の影響も無視できないと考えられる。そこで、個人特性を示す項目との関連についても検討した。

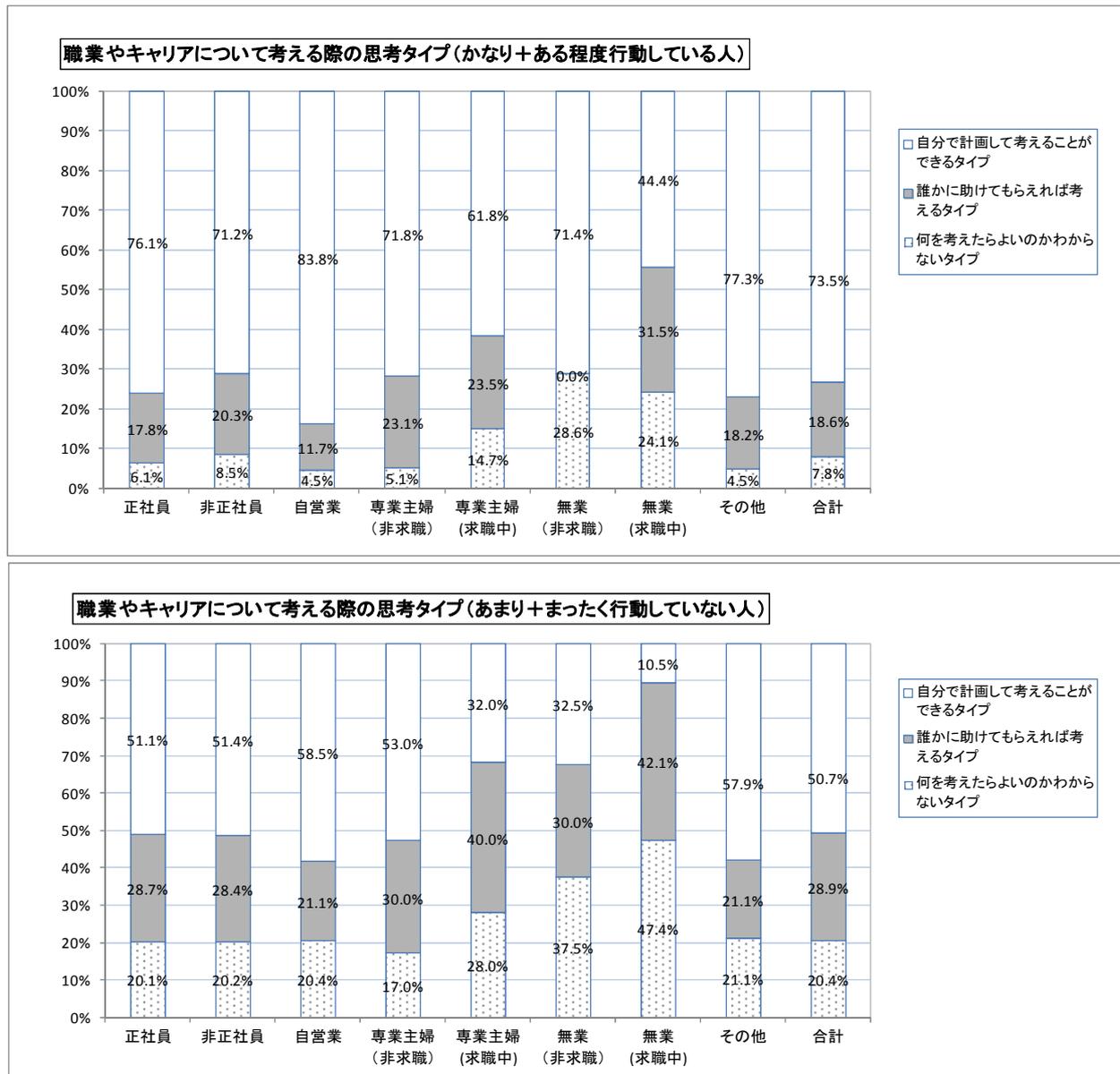
本調査の問27は、今後の職業やキャリアについて考える際にあてはまる個人の思考タイプを測定しており、「何を考えたらよいかわからない」、「誰かに助けてもらえれば考えられる」、「自分で計画して考えることができる」という3択で回答が得られている。この回答値は、その個人のキャリアに関する思考が自律的かどうかを一次元的に示す尺度ととらえることができる。この項目と、具体的な行動を起こす程度（問28）との相関を検討したところ、非求職の無業層を除くどの対象層においても5%水準以下で有意な相関が得られた（図表4-9）。すなわち、キャリアに関して自分で計画して考える等の自律性が高い人ほど、具体的な行動を起こしていることが示されている。

図表4-9 具体的な行動の程度と思考タイプ自律性との相関

	正社員	非正社員	自営業	専業主婦 (非求職)	専業主婦 (求職中)	無業 (非求職)	無業 (求職中)	求職中(主 婦+無業)
<i>r</i>	0.235	0.173	0.252	0.108	0.258	0.202	0.329	0.239
<i>sig</i>	***	***	***	*	***	ns	**	***
N	2273	585	336	503	195	51	83	278

***...p<.001, **...p<.01, *...p<.05

図表4-10 具体的な行動の程度と思考タイプ自律性



図表4-10の上図は、問28で「かなり行動している」「ある程度行動している」と回答した人のみに限定し、思考タイプの割合を対象者別に示したものである。下図では逆に、「あまり行動していない」「まったく行動していない」人に限定して同様の検討を行っている。全般的な傾向をみると、職業・キャリアについて自律的に考えることのできる人の方が、具体的な行動を起こしている割合が高くなっている。また、就業者（正社員・非正社員・自営業）と比べると、非就業者（主婦層、無業層）の方が3種類の思考タイプの構成割合の変動が大きいことが明らかとなった。特に、行動していない人（図表4-10の下図）において「何を考えたらよいかわからない」の割合が、非就業者層（特に、求職中の無業層）で高い点には留意すべきである。キャリアの問題について自力で計画したり考えることが苦手な個人が、結果として具体的な行動を取れない現状に結びついていると考えられる。

（4）補足：年収・職種をベースとしたキャリアに関する顕在ニーズの分析

ここまでの検討で、「現在の職業生活」を端的に現す指標として、現在の立場（問18）ごとの分析結果を比較していたが、本項では補足として、現在の職業生活を示す別の指標である、個人の税込年収（問16）、世帯の税込年収（問17）、職種（問21）を取り上げる。

年収別にみるキャリアに対する問題意識とその内容、支援サポートの必要性

まず、以後の分析のために、年収（個人・世帯）の回答結果をそれぞれ3群に分けた（収入なし、無回答を除く）。個人年収では、「100～200万円未満」までを低群（N=1264）、「400～500万円未満」までを中群（N=1372）、それ以上を高群（N=798）とした。世帯年収では、「400～500万円未満」までを低群（N=1346）、「700～800万円未満」までを中群（N=1437）、それ以上を高群（N=1013）とした。

図表4-11は、職業やキャリアに対して現在問題を感じる程度（問24）を年収別に示したものである。個人年収、世帯年収ともに、低くなるほど問題を強く認識している傾向があり、特に最も問題認識の強い回答である「かなり問題を感じている」に関しては、年収が低い人の回答割合がより顕著に現れている傾向が明らかとなった。

図表4-11 現在、職業やキャリアについてどのくらい問題を感じていますか（年収別）

	個人年収			世帯年収		
	低	中	高	低	中	高
かなり問題を感じている	17.5%	10.5%	5.5%	18.1%	9.1%	6.4%
やや問題を感じている	35.5%	37.6%	30.7%	37.0%	34.8%	30.0%
どちらでもない	24.2%	24.9%	24.4%	24.2%	28.1%	26.7%
あまり問題を感じていない	16.4%	20.9%	29.1%	14.7%	20.4%	26.2%
まったく問題を感じていない	6.5%	6.1%	10.3%	6.1%	7.6%	10.6%

注：一行すべてが太字の箇所は、列の3カテゴリ内の全ての組み合わせで有意差がある。
網かけは、同一行内で下線の引かれた値との間に有意差がある。

続けて、キャリアに関する具体的な問題内容(問25)について検討した(図表4-12)。個人年収、世帯年収ともに、低群の場合、自分の就職や向き不向き、労働条件、働き方等について問題を感じる割合が高いことが示された。また、職業やキャリア以外の問題(家族、健康)をあげる割合が多いのも特徴的である。高群では「特になし」との回答割合が多いが、その他の特徴として、個人年収の高群では自分の職業能力の向上に問題意識を感じる割合が他群より高かった。個人年収の中群では、労働条件や職業能力などに関心が集まっており、低群と高群の特徴を併せ持つ傾向がみられるが、一方で、中群ならではの特徴として、職場の上司との人間関係、悩みやグチといった、職場内の問題に焦点が向いている傾向がある。これは、低群にみられるような、自分の就職を今後どうすべきかという、現職を離れることや変えることを前提とした問題意識とは異なっており、興味深い傾向である。

なお、世帯年収の結果は、個人年収の結果と比べ、特に中群、高群において差異の現れ方が小さい傾向であった。

図表4-12 現在、職業やキャリアについてどのような問題を感じていますか(年収別)

	個人年収			世帯年収		
	低	中	高	低	中	高
将来全般について	43.1%	47.2%	35.8%	48.1%	34.6%	34.1%
自分の就職について	16.6%	5.4%	1.9%	15.4%	9.9%	5.0%
就職活動の仕方について	6.4%	2.9%	0.6%	8.0%	3.9%	2.3%
自分の職業の向き不向きについて	14.1%	13.0%	8.0%	15.7%	11.0%	9.5%
自分の労働条件について	27.4%	27.3%	16.2%	28.3%	23.2%	19.0%
自分の仕事の内容について	16.3%	21.1%	19.9%	16.2%	18.1%	17.0%
自分の職業能力をアップさせる方法について	18.0%	22.5%	22.5%	21.0%	17.5%	18.0%
自分の働き方について	25.3%	15.2%	15.1%	20.4%	21.0%	18.2%
職場の同僚との人間関係について	8.1%	9.3%	5.6%	7.9%	6.8%	6.3%
職場の上司との人間関係について	7.8%	12.7%	11.2%	8.6%	8.9%	9.8%
職場の部下との人間関係について	2.2%	3.7%	5.1%	2.5%	2.7%	4.3%
職場外の人との人間関係について	1.9%	2.1%	2.1%	2.0%	1.6%	2.0%
自分の家族について	12.3%	8.2%	7.5%	11.7%	11.6%	8.5%
身近な法律的な問題について	2.1%	1.4%	0.8%	1.6%	1.1%	1.2%
身近な健康問題について	14.2%	9.8%	7.8%	13.2%	9.9%	7.7%
いわゆる悩みやグチなどについて	5.7%	6.3%	3.6%	4.7%	5.0%	4.5%
誰にも話せない深刻な悩みについて	3.4%	2.3%	1.4%	3.6%	1.3%	1.6%
その他	1.4%	1.4%	1.9%	1.6%	1.5%	1.1%
特になし	16.5%	13.9%	22.6%	15.1%	20.4%	24.0%

注：網かけは、同一行内で下線の引かれた値との間に有意差がある。ただし同一行内の複数の網かけ内の値に有意差はない。

職業やキャリアに関する問題を解決する上での支援やサポートの必要性（問26）については、図表4-11の傾向を追認するような結果となっている（図表4-13）。すなわち、個人年収、世帯年収ともに、低群では支援やサポートの必要性を強く望む回答割合が高いことが明らかとなった。

図表4-13 職業・キャリアの問題解決のために、支援やサポートが必要か(年収別)

	個人年収			世帯年収		
	低	中	高	低	中	高
かなり必要である	11.4%	6.8%	3.5%	12.2%	7.1%	4.5%
やや必要である	36.0%	34.2%	26.9%	36.1%	34.9%	29.1%
どちらともいえない	35.1%	35.8%	35.3%	34.8%	34.7%	35.8%
あまり必要でない	13.3%	18.1%	25.5%	13.1%	17.8%	21.5%
まったく必要でない	4.2%	5.1%	8.9%	3.7%	5.5%	9.1%

注：網かけは、同一行内で下線の引かれた値との間に有意差がある。ただし同一行内の複数の網かけ内の値に有意差はない。
一行すべてが太字の箇所は、列の3カテゴリ内の全ての組み合わせで有意差がある。

職種別にみるキャリアに対する問題意識とその内容、支援サポートの必要性

職種に関しては、問21の回答結果を次の4カテゴリに集約した。「専門・技術・管理」（専門的・技術的職業と管理的職業。N=1242）、「事務」（事務的職業。N=1103）、「販売・サービス」（販売の職業とサービスの職業。N=433）、「生産工程その他」（保安の職業、農林漁業の職業、運輸・通信の職業、生産工程・建設・軽作業などの仕事、その他。N=658）とした。

職業やキャリアに対して現在問題を感じる程度（問24）を職種別に整理した結果が、図表4-14である。「専門・技術・管理」・「事務」の職種では、「問題を感じていない」と回答する割合が、他の職種と比較すると高い傾向がある。「生産工程その他」の職種では、問題認識の最も強い回答である「かなり問題を感じている」の回答割合が高い一方で、「まったく問題を感じていない」の回答割合も他群と比べると高いという、二極化の傾向がみられる。

図表4-14 現在、職業やキャリアについてどのくらい問題を感じていますか(職種別)

	専門・技術 ・管理	事務	販売・ サービス	生産工程 その他
かなり問題を感じている	8.7%	11.3%	12.3%	16.8%
やや問題を感じている	35.6%	35.8%	35.8%	30.5%
どちらでもない	22.9%	26.6%	27.4%	26.8%
あまり問題を感じていない	23.9%	21.3%	18.1%	16.5%
まったく問題を感じていない	8.9%	5.0%	6.3%	9.3%

注：網かけは、同一行内で下線の引かれた値との間に有意差がある。

次に、職業・キャリアに関する具体的な問題内容（問25）については、職種ごとに固有の特徴がみられた（図表4-15）。「専門・技術・管理」の職種では、自分の仕事内容、職業能力の向上に問題を感じていた。「事務」職では、仕事内容、職業能力の向上に問題を感じているほか、職場の人間関係（同僚、上司）、職業生活以外の問題（家族）を挙げるという特徴がみられた。「販売・サービス」の職種では、将来全般についての問題認識が他の職種と比較して最も強く現れており、それに伴う離転職のための就職活動の仕方を問題に挙げているという特徴がみられた。「生産工程その他」の職種では、自分自身の就職のことや、職業生活以外の問題（家族）に関心が向いているが、「特になし」と回答する割合も他群と比較して高く、図表4-14と同様の二極化の傾向が見られている。

図表4-16は、キャリアの問題解決をする上での支援やサポートの必要性（問26）を職種別に示したものである。「やや必要である」についてはどの職種も同程度の回答割合があるものの、「かなり必要である」という強いニーズを訴える割合が高いのは、「生産工程その他」、続いて「販売・サービス」の両職種であった。一方で、必要性を感じないとの回答が多いのは、「専門・技術・管理」の職種であった。

図表4-15 現在、職業やキャリアについてどのような問題を感じていますか(職種別)

	専門・技術 ・管理	事務	販売・ サービス	生産工程 その他
将来全般について	40.1%	44.9%	49.0%	39.2%
自分の就職について	4.9%	5.8%	8.1%	16.7%
就職活動の仕方について	1.2%	3.8%	3.7%	6.3%
自分の職業の向き不向きについて	10.9%	11.7%	13.2%	12.3%
自分の労働条件について	24.6%	23.7%	24.4%	24.7%
自分の仕事の内容について	19.7%	21.2%	17.4%	14.1%
自分の職業能力をアップさせる方法について (※)	22.4%	23.1%	16.5%	13.3%
自分の働き方について	18.9%	17.1%	18.6%	18.5%
職場の同僚との人間関係について	6.5%	10.3%	6.3%	8.1%
職場の上司との人間関係について	10.6%	12.5%	8.8%	7.4%
職場の部下との人間関係について	4.2%	2.5%	2.8%	3.7%
職場外の人との人間関係について	1.9%	2.5%	2.1%	1.5%
自分の家族について	6.7%	10.4%	10.4%	12.1%
身近な法律的な問題について	0.9%	1.3%	1.6%	2.1%
身近な健康問題について	9.4%	11.2%	8.6%	13.0%
いわゆる悩みやグチなどについて	4.8%	6.3%	4.9%	6.0%
誰にも話せない深刻な悩みについて	1.9%	2.1%	3.2%	3.7%
その他	1.2%	2.2%	1.4%	1.1%
特になし	18.7%	15.3%	13.9%	23.1%

注：網かけは、同一行内で下線の引かれた値との間に有意差がある。ただし同一行内の複数の網かけ内の値に有意差はない。

(※)：この行で有意差の出た組み合わせは、「専門・技術・管理と生産工程その他」、「事務と生産工程その他」、「事務と販売・サービス」であった。

図表4-16 職業・キャリアの問題解決のために、支援やサポートが必要か(職種別)

	専門・技術 ・管理	事務	販売・ サービス	生産工程 その他
かなり必要である ^(※)	5.4%	6.8%	9.3%	11.3%
やや必要である	31.4%	35.3%	30.6%	31.8%
どちらともいえない	35.6%	35.9%	39.0%	34.4%
あまり必要でない	20.4%	17.8%	17.4%	15.7%
まったく必要でない	7.3%	4.3%	3.7%	6.7%

注：網かけは、同一行内で下線の引かれた値との間に有意差がある。

(※)：この行で有意差があった組み合わせは、「専門・技術・管理と生産工程その他」「専門・技術・管理と販売・サービス」「事務と生産工程その他」であった。

(5) 小括

本節では、利用者にとって現在顕在化されたニーズに関する分析をとりあげた。本項では、キャリアに関する現状の問題認識と支援ニーズ、過去に感じたキャリア支援ニーズ、具体的な行動を起こす程度と思考の自律性、年収や職種別の違いという四点についてまとめる。

第一点目としては、キャリアに対する現状の問題認識について分析した。求職者層（主婦と無業）と非正社員の危機感が特に強く、特に求職者層では支援の必要性を強く訴えていることが明らかとなった。具体的には「将来全般」に問題を感じる割合が高く、就職の仕方や働き方などにも問題を感じていた。一方で、正社員等の就業者層において問題意識を高く感じるケースでは、現職からの転職を望んでいる場合や、現状の職業生活に不満な場合であった。求職活動をしていない専業主婦の場合、キャリアに対する具体的な問題内容を挙げていないケースが多かったにもかかわらず、支援やサポートの面では何らかのものを求めている傾向がみられた。

第二点目に、過去に感じたキャリアに関する支援ニーズについて分析を行った。対象層別に様々な場面でのニーズがみられた。正社員の場合、労働条件の良い職場への転職や、やりがいのある仕事に就くための転職のほか、職場内異動やトラブル、仕事内容が変更したときに支援の必要性を感じていた。非正社員の場合も正社員と同様に職場に関する内容のほか、正社員への転換を考えた時や、家庭や育児との両立を考えた時に支援の必要性を感じていた。主婦の場合も、家庭や育児の問題と仕事との両立の面でサポートを感じていた。求職中の無業の場合は、倒産やリストラ等での転職を余儀なくされた場合にサポートの必要性を感じていた。

第三点目として、キャリアに関する問題認識を持った人が具体的な行動をとるにあたって、個人特性（本項ではキャリアに関する思考の自律性）の影響についてとりあげた。キャリアについて自分で計画を立てられる人は、具体的な行動に移しやすい傾向があることが示された。求職層で「具体的な行動を起こしていない」人たちには、「何を考えてよいかわからない」という混乱状態にある割合が多く存在し、「誰かに助けてもらえれば考えられる」という回答

も多く積極的な支援やアプローチの必要性が示唆された。また、求職中でない無業層でも「まったく行動していない」層が5割を超えていたが、将来について強く問題を感じている層もあることから、やはり支援者側からの積極的なアプローチの必要性があると考えられる。

最後に第四点目として、年収別・職種別にキャリアの問題認識を分析した。結果として、年収の低い方がキャリアに対して問題を強く感じやすく、サポートの必要性も高いことが明らかとなった。具体的な問題例としては、将来全般のほか、就職や働き方、家族や健康問題を抱えていた。年収が高い群では自身の職業能力の向上に関心があり、年収が中程度の群では、職場内の人間関係に問題が焦点化していることも明らかとなった。職種別では、専門・技術・管理職では問題を感じる程度が相対的に低く、生産工程職では問題を感じる割合が高い層と極端に低い層とが混在する状況にあった。具体的な問題内容については、専門・技術・専門職では自身の職業能力向上、事務職では職業能力向上と職場内人間関係、販売・サービス職では将来への不安と就職活動の仕方に問題を感じていた。生産工程職では、自身の就職や家族の問題を抱えている場合と、特に感じていないケースとに二分されていた。

3. キャリアガイダンスに関する潜在ニーズの分析

続いて本節では、調査対象層が現時点で自覚していないニーズ、あるいは現時点では必要性を感じていないが将来的に必要となりそうな潜在ニーズについての分析結果を報告する。

ここで報告する潜在ニーズに関する項目は、利用してみたい支援やサービスに対する回答結果（問29）、支援やサービスにかけられる費用や時間（問30）、支援やサービスを受けるための希望条件（問31）である。これらの変数を、現在の立場（問18）別に報告する。

（1）利用してみたい支援やサービス

図表4-17では、「仮にあなたが、これからの職業やキャリアに関する支援やサービスを利用するとしたら、どのようなことをしますか」（問29）の回答について、「そう思う（＝5）」～「そう思わない（＝1）」と反転し、各対象層の平均値を掲載している。

全般的にみると、どの層でも「インターネットでの情報収集」の人気の高いことが示された。対象層別では、求職者層で特に積極的な傾向がみられた。例えば求職中の専業主婦層では、インターネットでの職業適性検査の受検や無料セミナーの希望割合が高かった。求職中の無業層の場合は、検査受検（ネットおよび専門機関）、キャリア相談（メール相談および専門家との個別相談）、セミナー（無料および有料）のいずれも人気があり、就職につながるサービスなら何でも使いたいという意欲が現れていた。有料セミナーについての希望度合い（2.33）についても、同じ無業層でも非求職の場合は非常に低い（1.86）ことを踏まえると、就職への緊要度の高さが大きく影響を与えているものと推察される。

一方、自営業層は、インターネットでの情報収集を除けば、総じて他の層よりも消極的な回答傾向であった。

図表4-17 利用してみたい支援やサービス(5段階評定の平均値)

	正社員	非正社員	自営業	専業主婦 (非求職)	専業主婦 (求職中)	無業 (非求職)	無業 (求職中)	その他	合計
インターネットで情報収集	4.12	4.27	4.11	4.28	4.41	3.86	4.51	4.56	4.19
インターネットで職業適性検査を受検	3.40	3.50	2.99	3.56	3.80	3.33	3.70	3.42	3.42
専門機関で職業適性検査を受検	3.07	3.08	2.69	2.98	3.24	2.86	3.55	2.95	3.04
メールで職業キャリア相談	2.68	2.67	2.43	2.54	2.79	2.63	3.07	2.60	2.66
電話で職業キャリア相談	2.41	2.43	2.21	2.31	2.51	2.10	2.65	2.24	2.39
専門家と会って職業キャリア相談	2.83	2.80	2.58	2.61	2.87	2.30	3.27	2.69	2.78
無料セミナーに参加	3.00	3.00	2.67	2.94	3.41	2.51	3.51	2.91	2.99
有料セミナーに参加	2.32	2.17	2.13	2.13	2.23	1.86	2.33	2.09	2.25

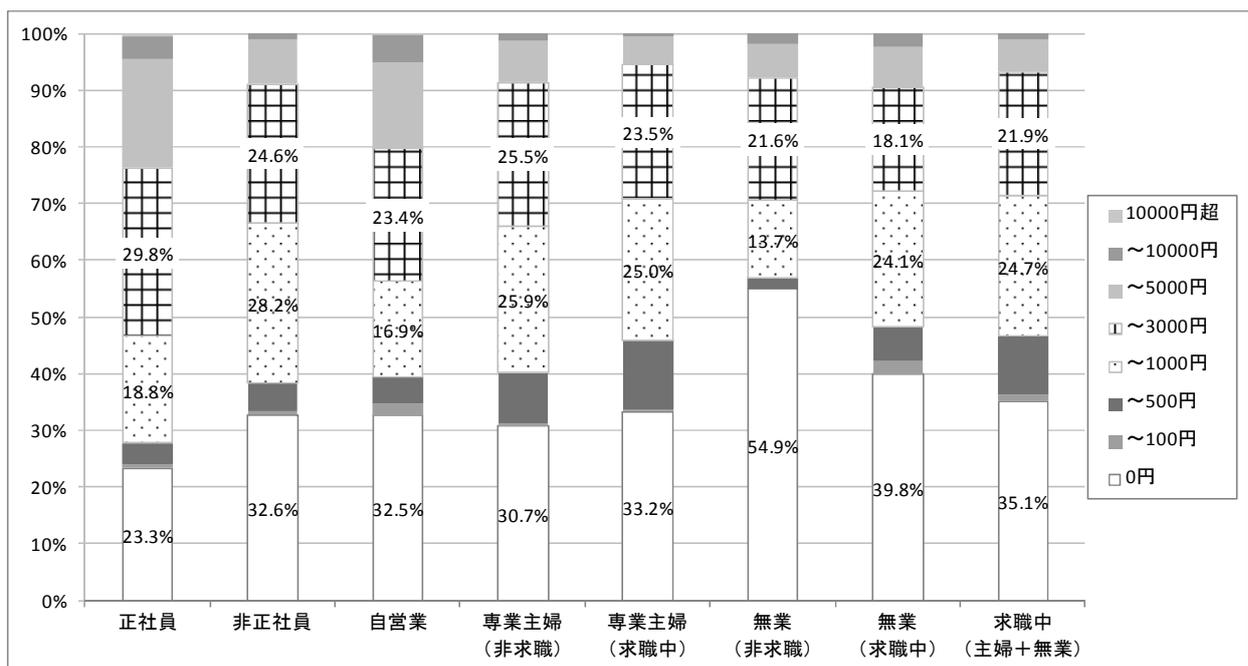
注：網かけは正社員の数値を基準とした場合に、5%水準で有意差があるカテゴリを示す。

(2) 支援やサービスにかけられる費用や時間

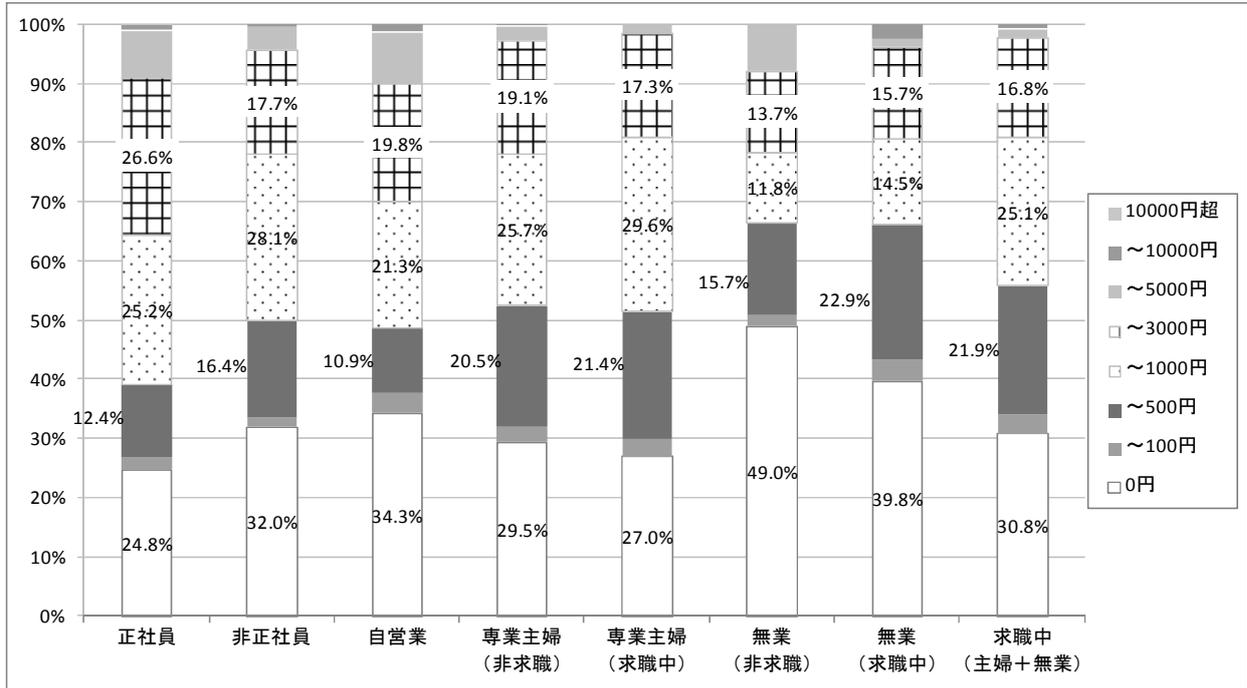
問30では、「これからの職業やキャリアに向けて、どのくらいお金や時間をかけられますか」という質問を、1対1の個別相談（以下、個別相談）、適性や能力がわかる心理テスト（以下、テスト受検）、職業やキャリアに関する情報獲得（以下、情報収集）、という三つの側面からそれぞれ尋ねている。まず、費用の面から報告する（図表4-18～20）。

結果として、個別相談、テスト受検、情報収集のいずれにおいても、無料で（0円で）サービスを受けたいという希望が、特に非就業者層を中心に根強く存在することが明らかになった。正社員では25%程度だが、無業の非求職層では半数近くが無料サービスを希望している。このように、無料あるいは無料に近い価格でのサービス提供を希望する人数が一定以上いる一方で、有料でも良いと回答する人も一定以上いることから、そのままの平均値と、100円未満の回答を除いた平均値の二通りを算出し、各対象層間で比較した（図表4-21）。

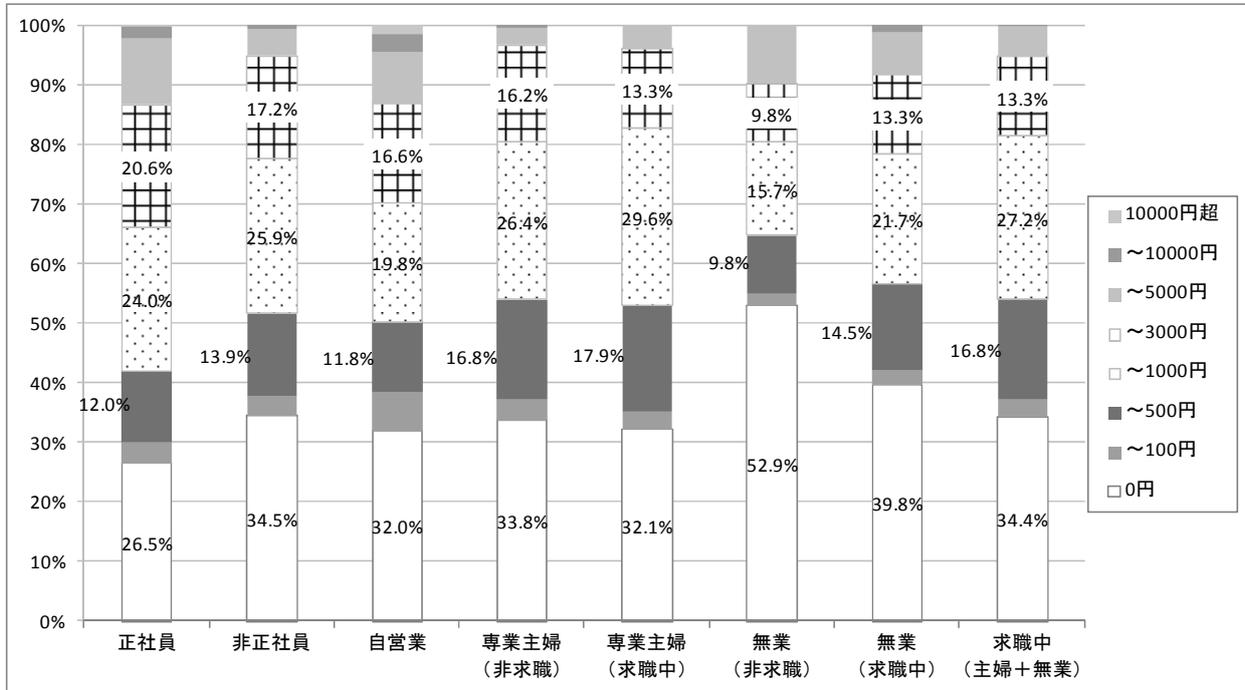
図表4-18 1回の支援やサービスにかけられる費用(個別相談)



図表4-19 1回の支援やサービスにかけられる費用(テスト受験)



図表4-20 1回の支援やサービスにかけられる費用(情報収集)



図表4-21 1回の支援やサービスにかけられる費用と時間(平均値)

	正社員	非正社員	自営業	専業主婦 (非求職)	専業主婦 (求職中)	無業 (非求職)	無業 (求職中)
個別相談	2487.63	1417.87	2137.88	1440.48	1180.10	1127.45	1260.36
(100円未満を除く)	3332.59	2131.66	3330.89	2128.62	1805.98	2500.00	2097.62
費用 テスト受検	1474.02	987.16	1303.74	951.10	871.43	909.80	875.96
(円) (100円未満を除く)	2037.01	1488.99	2136.39	1407.74	1258.97	2038.10	1550.00
情報収集	1652.51	1046.41	1871.47	932.60	927.55	909.80	1036.14
(100円未満を除く)	2273.44	1592.60	2440.45	1425.25	1402.56	2114.29	1738.10
時間 個別相談	50.67	45.68	41.93	46.35	46.79	41.27	67.04
(分) テスト受検	40.67	38.45	32.45	39.58	39.77	41.57	60.71
情報収集	44.34	43.12	43.09	45.80	47.95	45.39	65.29

注：網かけは正社員の数値を基準とした場合に、5%水準で有意差があるカテゴリを示す。

図表4-21の結果から、正社員と比較すると、非就業者層（主婦・無業）と非正社員層では、費用の面で正社員よりも有意に低い金額を希望することが明らかとなった。このような傾向は、100円未満という回答を除いた場合でもほぼ同様であった。支援サービスの種別でみると、個別相談は支払える金額が最も高く、続いて情報収集、テスト受検の順に高かった（専業主婦の場合、テスト受検、情報収集の順であった）。特にテスト受検は、正社員・自営業を除くと平均値は1000円未満であり、無料・低価格での受検希望者が多い傾向が明らかとなった。

次に、時間の面を比較すると、自営業と求職中の無業層だけが他の層と異なる傾向を示していた。自営業の場合、個別相談、テスト受検の両方において、正社員（や他の対象層）と比べてかけられる時間が短い傾向があった。逆に、求職中の無業層では、個別相談、テスト受検、情報収集のいずれにおいても、正社員（や他の対象層）よりも長時間のサービスを望む傾向が明らかとなった。同じ求職中の層でも、専業主婦にはそのような傾向はみられておらず、無業の求職者層は、じっくり時間をかけるタイプのサービスを求める傾向にあることが示唆された。

(3) 希望する支援やサービスのタイプと希望条件

本項では、希望するキャリアガイダンス・サービスのタイプと、具体的な場所、時間帯などの希望条件について検討する。ここで検討する設問は、問31「今、職業やキャリアに関する支援やサポートを受けるとしたら、どのような条件で受けたいと思いますか」である。最初に、対象層別の回答結果を整理する。次に、どのような性質の個人がどのようなサービスを希望しているのか（どのようなサービスにニーズがあるのか）という観点に着目し、選び方の特徴を分析する。

対象層別の回答結果

最初の設問では、キャリアガイダンスで用いられる代表的な4つの支援やサポートのタイプについて、希望を尋ねている（図表4-22）。全対象層を通じて最も希望が多かったのは「職業やキャリアに関する情報を入手したい」（合計で45.04%）であった。次に、「テストや検査の受検」を希望する割合がどの層にも同程度にみられた。「相談やカウンセリング」については、求職者層（主婦、無業）でやや希望割合が高い傾向がみられたものの、有意差は検出されていない。

支援やサービスを受けたい場所についての設問では、おしなべてハローワークにおけるサービスを求める割合が高いが、対象層間の違いが結果に現れている（図表4-23）。ハローワークを希望する割合は、非就業者層（主婦、無業）や、非正社員に多かった。正社員の場合も、ハローワークを希望する割合が最も高いが、その他の選択肢にも回答が分散しており、特に「専門の民間会社」を選ぶ割合が他の層と比較して高いことが特徴的である。なお、自営業や専業主婦、非求職の無業層は「自宅」でのサービスを希望する割合が高いことも明らかになった。

図表4-22 希望する支援やサポートのタイプ

	正社員	非正社員	自営業	専業主婦 (非求職)	専業主婦 (求職中)	無業 (非求職)	無業 (求職中)	その他	合計
職業やキャリアに関する情報を入手したい	43.7%	46.5%	47.5%	46.2%	48.9%	43.1%	43.0%	49.1%	45.0%
テストや検査を受けたい	33.0%	34.4%	26.7%	35.9%	29.5%	27.5%	27.8%	25.5%	32.6%
相談やカウンセリングを受けたい	14.2%	13.3%	17.8%	12.6%	17.9%	25.5%	20.3%	20.0%	14.7%
セミナー・ガイダンスに出たい	9.1%	5.8%	8.0%	5.3%	3.7%	3.9%	8.9%	5.5%	7.7%

注：どの組み合わせも、有意差検出。

図表4-23 支援やサービスの希望条件(場所)

	正社員	非正社員	自営業	専業主婦 (非求職)	専業主婦 (求職中)	無業 (非求職)	無業 (求職中)	その他	合計
ハローワークなどで	19.2%	37.0%	19.2%	33.0%	39.3%	31.3%	32.9%	19.6%	24.7%
就労支援機関などで	9.4%	9.1%	7.2%	4.4%	6.4%	10.4%	12.3%	9.8%	8.5%
職業訓練機関・施設などで	9.4%	9.3%	8.2%	4.8%	9.2%	6.3%	19.2%	2.0%	8.7%
大学・短大・専門学校などで	1.8%	1.0%	1.9%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	7.8%	1.5%
カルチャーセンターなどで	5.8%	4.3%	8.8%	8.1%	5.8%	4.2%	4.1%	7.8%	6.1%
専門の民間企業で	11.4%	5.8%	9.1%	4.2%	4.6%	2.1%	6.8%	5.9%	8.9%
勤務先で	8.7%	3.3%	4.7%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%	5.8%
自宅で	18.0%	16.1%	25.2%	27.0%	18.5%	35.4%	13.7%	27.5%	19.7%
駅前などの便利な場所で	14.7%	13.6%	11.9%	16.7%	15.0%	6.3%	9.6%	13.7%	14.4%
その他	1.7%	0.4%	3.8%	0.9%	1.2%	4.2%	1.4%	3.9%	1.6%

注：網かけは正社員の列を基準とした場合に、5%水準で有意差があるカテゴリを示す。

次に、支援やサービスの1回あたりの時間については（図表4-24）、どの層も「30分～1時間以内」の回答が最も多く、全体の約7割が1時間以内のサービスを希望しているという実態が明らかになった。また、非正社員と非求職の専業主婦層では、「15～30分以内」を希望する割合が正社員と比較すると高かったのが特徴的であった。

希望する曜日については、「特に気にしない」との回答割合がどの層でも概ね高かった（図表4-25）。「休日」を希望する割合が高いのは正社員、「平日」の希望割合が高いのが非正社員、自営業、専業主婦、無業層であった。

時間帯については、各対象層でばらつきが現れている（図表4-26）。まず全体の傾向として言えることは、「早朝」や「細切れの時間」のニーズが非常に低いことである。つまり、慌ただしい中で無理して時間を作るよりも、しっかりと時間を確保してからサービスや支援を受けたいというニーズの方が強いと言える。

図表4-24 支援やサービスの希望条件(1回あたりの時間)

	正社員	非正社員	自営業	専業主婦 (非求職)	専業主婦 (求職中)	無業 (非求職)	無業 (求職中)	その他	合計
15分以内	11.7%	9.6%	13.9%	9.0%	9.6%	21.6%	7.2%	10.9%	11.2%
15～30分以内	17.7%	24.1%	19.2%	25.1%	20.8%	15.7%	18.1%	20.0%	19.8%
30分～1時間以内	41.9%	40.6%	39.1%	42.8%	46.2%	35.3%	31.3%	32.7%	41.4%
1時間程度	15.1%	12.3%	13.9%	12.4%	11.2%	11.8%	19.3%	23.6%	14.2%
1～2時間	8.5%	7.5%	7.4%	6.2%	6.6%	5.9%	7.2%	3.6%	7.8%
2時間以上	0.4%	0.3%	0.6%	0.4%	0.5%	0.0%	1.2%	0.0%	0.4%
時間は特に気にしない	4.7%	5.5%	5.9%	4.2%	5.1%	9.8%	15.7%	9.1%	5.2%

注：網かけは正社員の列を基準とした場合に、5%水準で有意差があるカテゴリを示す。

図表4-25 支援やサービスの希望条件(曜日)

	正社員	非正社員	自営業	専業主婦 (非求職)	専業主婦 (求職中)	無業 (非求職)	無業 (求職中)	その他	合計
平日	22.0%	30.8%	36.1%	57.6%	63.5%	37.3%	28.9%	34.5%	31.3%
休日	37.3%	20.0%	10.1%	5.2%	3.0%	0.0%	7.2%	12.7%	25.6%
曜日は特に気にしない	40.6%	49.2%	53.8%	37.3%	33.5%	62.7%	63.9%	52.7%	43.1%

注：網かけは正社員の列を基準とした場合に、5%水準で有意差があるカテゴリを示す。

図表4-26 支援やサービスの希望条件(時間帯)

	正社員	非正社員	自営業	専業主婦 (非求職)	専業主婦 (求職中)	無業 (非求職)	無業 (求職中)	その他	合計
早朝	0.6%	0.4%	0.9%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%
午前中	16.4%	26.9%	18.5%	49.8%	57.9%	12.2%	15.9%	30.9%	24.3%
午後	12.7%	17.3%	19.1%	13.3%	11.1%	32.7%	25.6%	16.4%	14.4%
夕方以降	18.0%	8.4%	5.5%	0.0%	1.1%	6.1%	6.1%	3.6%	12.0%
細切れの時間を利用	1.4%	1.2%	2.4%	1.8%	0.0%	2.0%	2.4%	3.6%	1.5%
時間を特定しない	27.9%	26.9%	28.5%	24.0%	21.1%	36.7%	20.7%	34.5%	27.0%
時間帯は特に気にしない	23.0%	18.9%	25.2%	10.9%	8.9%	10.2%	29.3%	10.9%	20.2%

注：網かけは正社員の列を基準とした場合に、5%水準で有意差があるカテゴリを示す。

その他にも、時間帯を特定する層と、特定しない層に回答が分かれることも示された。まず、時間帯を特定する場合には、「午前中」を多く希望するのは専業主婦層（求職・非求職の両方）と非正社員、「午後」を多く希望するのは自営業や無業層（求職・非求職の両方）であった。「時間帯を特に気にしない」と回答した割合は、「時間を特定しない」という回答と同様に、正社員、非正社員、自営業、無業（求職中）で高いことが示された。各対象層の生活時間帯の違いと、自分の自由に使える時間帯の有無等によって回答傾向が異なったものと考えられる。

希望する支援・サービスの期間については、「1回のみ」という割合が全体の3割程度に達していた（図表4-27）。また、「期間は特に気にしない」という回答割合も一定以上みられ、特に求職中の無業層で高い傾向にあった。

「1回のみ」ではなく、複数回にわたるサービスを受けたい場合の希望期間としては、「1週間に1回で4週間程度」という、週1回のサービスが1ヶ月間続くというスタイルに人気が集まった。一方で、求職者層（主婦、無業）では、連続して数日や1週間に数回など、集中的なサービスが好まれる傾向がみられた。

支援やサービスを受ける際の希望人数については、7～8割の人が「1人で」のサービスを希望していた（図表4-28）。その一方で興味深いのは、専業主婦の場合、「4～5人」または「6～10人」のグループでの希望割合が他の層よりも高かったことである。原因は不明だが、グループワーク等を通じて、日常的に接する機会のない他の主婦層たちとの情報交換をしたいという希望やニーズが一定以上あるのではないかと推察される。

図表4-27 支援やサービスの希望条件(期間)

	正社員	非正社員	自営業	専業主婦 (非求職)	専業主婦 (求職中)	無業 (非求職)	無業 (求職中)	その他	合計
1回のみ	30.4%	33.0%	33.1%	32.2%	23.9%	31.4%	15.7%	34.5%	30.7%
連続して数日	4.5%	5.1%	5.0%	7.0%	7.1%	3.9%	9.6%	0.0%	5.1%
1週間に数回	4.4%	6.2%	3.8%	6.4%	9.1%	7.8%	4.8%	3.6%	5.1%
1週間に1回で4週間程度	13.1%	9.6%	8.3%	15.8%	18.3%	2.0%	12.0%	12.7%	12.6%
1週間に1回で2～3ヶ月	7.4%	9.4%	5.0%	6.4%	9.1%	9.8%	9.6%	3.6%	7.5%
1ヶ月に1回で2～3ヶ月	10.2%	6.8%	6.2%	5.0%	4.1%	2.0%	2.4%	5.5%	8.1%
1ヶ月に1回で半年程度	4.4%	1.7%	1.8%	1.4%	2.0%	0.0%	3.6%	1.8%	3.2%
その他	0.2%	0.3%	0.6%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%
期間は特に気にしない	25.4%	27.7%	36.1%	25.6%	26.4%	43.1%	42.2%	38.2%	27.4%

注：網かけは正社員の列を基準とした場合に、5%水準で有意差があるカテゴリを示す。

図表4-28 支援やサービスの希望条件(人数)

	正社員	非正社員	自営業	専業主婦 (非求職)	専業主婦 (求職中)	無業 (非求職)	無業 (求職中)	その他	合計
1人で	79.9%	74.7%	79.2%	67.8%	73.5%	86.3%	74.4%	80.0%	77.3%
2～3人のグループで	6.7%	7.6%	3.6%	8.6%	11.2%	0.0%	8.5%	3.6%	6.9%
4～5人のグループで	5.7%	7.7%	6.5%	11.0%	5.6%	3.9%	8.5%	10.9%	6.8%
6～10人のグループで	3.6%	4.3%	4.5%	7.8%	4.1%	3.9%	4.9%	3.6%	4.3%
11～20人のグループで	1.7%	3.6%	3.0%	3.0%	3.1%	0.0%	0.0%	1.8%	2.2%
21人以上の大人数で	2.5%	2.1%	3.3%	1.8%	2.6%	5.9%	3.7%	0.0%	2.4%

注：網かけは正社員の列を基準とした場合に、5%水準で有意差があるカテゴリを示す。

最後に、誰から支援やサービスを受けたいかの回答で、全体を通じて最も多かったのは「公的機関のカウンセラーなど」(32.29%)であった。「ハローワークなどの職員」を多く希望するのは、主に非就業者層(専業主婦、無業)と非正社員という結果であった。正社員の場合は、「民間企業のカウンセラー」の希望割合が他の層と比較して高かった。その他の特徴として、自営業の場合「まったく知らない人」からの支援を受けたいとの回答が高い傾向にあった。一方、「社内のカウンセラー」を希望するという回答は、主に正社員に需要があるものと思われたが、希望割合は低かった。

図表4-29 支援やサービスの希望条件(誰から受けたいか)

	正社員	非正社員	自営業	専業主婦 (非求職)	専業主婦 (求職中)	無業 (非求職)	無業 (求職中)	その他	合計
ハローワークなどの職員	11.1%	22.5%	11.1%	26.2%	32.7%	23.4%	27.6%	13.5%	16.1%
公的機関のカウンセラーなど	33.3%	31.9%	26.4%	33.8%	30.4%	31.9%	32.9%	23.1%	32.3%
公的機関のカウンセラー以外	10.6%	12.5%	10.8%	8.3%	4.7%	10.6%	11.8%	13.5%	10.4%
民間企業のカウンセラー	27.6%	17.4%	21.7%	14.8%	18.1%	6.4%	15.8%	23.1%	23.1%
社内のカウンセラー	1.0%	0.6%	0.0%	0.2%	0.0%	2.1%	0.0%	0.0%	0.7%
出身学校のカウンセラー	0.5%	0.2%	0.6%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%
友人や知人	0.9%	1.3%	0.6%	0.9%	1.8%	4.3%	0.0%	1.9%	1.0%
職場の先輩や上司	1.4%	0.6%	0.6%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%
職場以外の先輩や上司	1.0%	0.9%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%
家族や親戚から	0.2%	0.4%	0.3%	0.4%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%
古くからの知り合い	0.2%	0.6%	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%
インターネットなどでの知り合い	1.2%	0.9%	3.2%	1.1%	0.6%	0.0%	1.3%	1.9%	1.3%
まったく知らない人	3.3%	2.6%	7.0%	2.0%	2.3%	4.3%	3.9%	1.9%	3.3%
自分で	7.1%	7.0%	11.8%	10.0%	6.4%	17.0%	5.3%	19.2%	8.1%
その他	0.8%	0.6%	3.5%	1.1%	1.8%	0.0%	1.3%	1.9%	1.1%

注：網かけは正社員の列を基準とした場合に、5%水準で有意差があるカテゴリを示す。

希望するガイダンス・サービスの選び方に現れた特徴

次に本項では、キャリアガイダンスで用いられる代表的な4つのサービス(情報、テスト、相談、セミナー)について、どのような背景にある個人がどのようなサービスを選ぶ傾向にあるのか、詳細に検討を進める。

分析方法には、調査票にある属性項目や個人の思考特徴の項目、過去の経験に関する項目、ガイダンスニーズ関連の項目等を独立変数とし、4つのガイダンスサービスのうちどれが選択されるのかを従属変数とした正準判別分析を用いた。事前に調査対象層別にデータを構成し、ステップワイズ法による判別分析を実施した結果を参考に、有力な変数を選定した後に、それらの変数を再度入れ直して判別分析を実施した。分析結果の正準判別関数の固有値、正準相関とその有意性(Wilksのλの有意確率)、判別的中率を参考までに図表4-30に示した。全体的な結果をみると、交差妥当化の結果による判別の中率は必ずしも高くない(20~40%台)。したがって、本分析の結果から各調査対象層の特徴をみるにあたっては、この正準判別関数による判別にやや「外れ」が多い点に十分留意して解釈する必要がある。

図表4-30 (参考)希望するサービズに関する正準判別分析結果と判別的中率

調査対象者	判別関数	固有値	正準相関	Wilksのλ	sig	判別的中率
正社員	1	.070	.257	.905	***	35.5%
	2	.017	.128	.969	***	
	3	.016	.124	.985	***	
非正社員	1	.054	.226	.924	*	24.6%
	2	.023	.151	.974	ns	
	3	.004	.061	.996	ns	
自営業	1	.090	.287	.885	***	48.8%
	2	.031	.173	.965	ns	
	3	.005	.071	.995	ns	
専業主婦 (非求職)	1	.080	.272	.872	***	45.8%
	2	.049	.216	.942	***	
	3	.012	.110	.988	*	
専業主婦 (求職中)	1	.188	.398	.804	***	40.9%
	2	.043	.203	.955	ns	
	3	.004	.065	.996	ns	
無業 (非求職)	1	.675	.635	.551	**	29.4%
	2	.061	.240	.923	ns	
	3	.021	.143	.979	ns	
無業 (求職中)	1	.293	.476	.752	*	49.4%
	2	.023	.149	.973	ns	
	3	.005	.069	.995	ns	
求職中 (主婦+無業)	1	.112	.317	.861	***	30.1%
	2	.036	.186	.957	ns	
	3	.009	.095	.991	ns	

***・p<.001, **・p<.01, *・p<.05

以下に、各対象層別の結果を掲載するが、図表4-30に示す通り、各対象層別に求めた正準判別関数が3つとも有意な場合もあれば、1つのみが有意なものもある。本項では有意な関数を中心に解釈することにした。

正社員における特徴：まず、各判別関数の結果を直接的に解釈してみる(図表4-31)。第1判別関数では、思考の自律性が高く、求人情報を必要としていない人で、過去に人間関係で転職したいと思っただことがない人は、「相談・カウンセリング」を選ばない傾向がある。第2判別関数では、求人情報が不要で、現在悩みやグチがあり、学歴が高く、過去に人間関係で転職したいと思っただ人が、「相談・カウンセリング」を選ぶ傾向がある。第3判別関数では、学歴が高く、求人情報が必要で、求人以外のキャリア情報を必要としていない人は、「セミナー・ガイダンス」を選ぶ傾向がある。

以上をまとめて考察すると、正社員の場合、「相談・カウンセリング」を希望するかどうかの境目は、本人の思考の自律性が確保されているかどうか、現在求人情報が必要かどうか、過去に人間関係で転職したいと思っただかどうかという側面が影響を及ぼしていると考えられ

る。また、今の悩みやグチを聞いてほしいという欲求も、「相談・カウンセリング」につながりやすい側面を持つ。「セミナー・ガイダンス」の選択基準では、求人情報・求人以外のキャリア情報の必要性が影響を与えていると考えられる。

図表4-31 希望するサービスと各変数との関連(正社員)
(上図:標準化正準判別係数・下図:グループの重心の関数)

		判別関数		
		1	2	3
ニーズ 関連	求人情報の必要性	- .458	-.562	.878
	キャリア情報の必要性	.041	.280	-1.029
現状・ 問題	悩みやグチ ^(※)	-.298	.478	.092
	現在、特になし ^(※)	.255	-.183	.238
過去経験	転職時(人間関係)での サポート必要性 ^(※)	-.441	.409	.194
	転職時(労働条件)での サポート必要性 ^(※)	.419	.290	-.212
	属性 最終学歴	.142	.435	.474
思考特徴	思考タイプ自律性	.531	.122	.272

(※)はダミー変数として投入。

	判別関数		
	1	2	3
情報入手	.269	.063	-.007
テスト受検	-.154	-.121	-.112
相談・カウンセリング	-.470	.216	.062
セミナー・ガイダンス	-.025	-.193	.341

図表4-32 希望するサービスと各変数との関連(非正社員)
(左図:標準化正準判別係数・右図:グループの重心の関数)

		判別関数		判別関数	
		1		1	
ニーズ 関連	キャリア問題認識	.189		情報入手	.076
	支援サポートの必要性	.548		テスト受検	-.222
現状・ 問題	転職希望	.157		相談・カウンセリング	.454
	職業生活への満足度	.207		セミナー・ガイダンス	-.332
	将来全般に問題 ^(※)	.042			
	特になし ^(※)	-.294			
過去経験	家庭関連(子ども成長 時)でのサポート必要性 ^(※)	-.361			
属性	配偶者が家計負担 ^(※)	-.068			
思考特徴	思考タイプ自律性	.349			

(※)はダミー変数として投入。

非正社員における特徴：第1判別関数を解釈すると、「相談・カウンセリング」を選ぶ傾向の人は、現在キャリアに関する支援サポートを必要としており、思考自律性が高く、以前子どもが成長した時に支援サポートが必要だと感じた人であった（図表4-32）。推測だが、この解釈の中心となっているのは、子どもの手が離れて働きに出られる状態の女性で、働くことに対して自ら計画をたてられる自律性の高い人が支援サポートの場として「相談・カウンセリング」を求めているのではないかと考えられる。

自営業における特徴：第1判別関数が示す内容は、現在、職場外の人間関係や上司との関係に問題を感じていたり、職業の向き不向きに問題を感じている人が、「相談・カウンセリング」を選ぶ傾向にあることである（図表4-33）。自営業の場合、職場内の人間関係よりも、取引先や家族など、職場外での人間関係の状態が相談を受けるかどうかの決め手となっている可能性がある。また、職業の向き不向きについての悩みを持った場合も相談につながりやすい可能性がある。

図表4-33 希望するサービスと各変数との関連(自営業)
(左図:標準化正準判別係数・右図:グループの重心の関数)

		判別関数	
		1	判別関数
			1
現状・ 問題	人間関係(上司)に問題 ^(※)	.306	情報入手
	人間関係(職場外)に問題 ^(※)	.788	テスト受検
	職業の向き不向きに問題 ^(※)	.263	相談・カウンセリング
	深刻な悩み ^(※)	-.106	セミナー・ガイダンス
			-.084

(※)はダミー変数として投入。

図表4-34 希望するサービスと各変数との関連(非求職の専業主婦)
(上図:標準化正準判別係数・下図:グループの重心の関数)

		判別関数		
		1	2	3
現状・ 問題	法律的問題 ^(※)	.988	-.033	.158
	人間関係(職場外)に問題 ^(※)	-.096	.652	.754
過去経験	転職時(人間関係)でのサポート必要性 ^(※)	.087	.721	-.692

(※)はダミー変数として投入。

		判別関数		
		1	2	3
	情報入手	-.077	-.157	.084
	テスト受検	-.048	.012	-.146
	相談・カウンセリング	-.079	.542	.098
	セミナー・ガイダンス	1.192	.001	.023

専業主婦（非求職）における特徴：第1判別関数が示す内容は、現在、法律上の問題を感じている人が「セミナー・ガイダンス」を希望する傾向があることである（図表4-34）。第2、第3判別関数は方向性がやや似ているので、より特徴の出ている第2判別関数のみ検討すると、現在、職場外の人間関係に問題を感じており、過去に人間関係の問題で転職したいと思ったことがある人が、「相談・カウンセリング」を選ぶ傾向がある。

第1判別関数の結果は、他の調査対象層にない独特の傾向と言えるが、「法律上の問題」が何を指すのかについて当調査でこれ以上追跡することはできないし、それが果たしてキャリアガイダンスの扱う範囲におさまるものなのかの判断は難しい。ここで示された「セミナー・ガイダンス」は必ずしもキャリアガイダンスを主体とするものではない可能性もある。第2判別関数の結果を解釈すると、現在、職場外の人間関係（家族、隣人、友人など）で問題を感じている人で、「相談・カウンセリング」を希望するのは、過去に人間関係の問題で転職時にサポートが必要だと感じた人であるという意味である。つまり、過去に支援やサポートの必要性を感じたかどうか、現在抱える問題について相談をするかどうかの決め手になっている可能性がある。

専業主婦（求職中）における特徴：第1判別関数の結果によると、職業生活への満足度が高く、現在部下との人間関係で問題を感じており、過去に職場トラブルでサポートが必要だと感じたことがある人が、「相談・カウンセリング」を希望する傾向がある（図表4-35）。求職中の専業主婦という立場で、部下との人間関係に問題を抱えるという部分の解釈が困難だが、方向性として一つ言える点は、前述の非求職の専業主婦の第2判別関数と同様に、過去に職場の問題で支援やサポートを必要だと感じている人が「相談・カウンセリング」に結びつきやすいのではないかと推察される。

図表4-35 希望するサービスと各変数との関連(求職中の専業主婦)

(左図:標準化正準判別係数・右図:グループの重心の関数)

		判別関数		
		1	判別関数	
			1	
現状・ 問題	職業生活への満足度	.567	情報入手	-.279
	人間関係(部下)に問題 (※)	.664	テスト受検	-.058
過去経験	職場トラブル時でのサ ポートの必要性 ^(※)	.528	相談・カウンセリング	.916
	正社員を希望した時のサ ポート必要性 ^(※)	.011	セミナー・ガイダンス	-.095

(※)はダミー変数として投入。

無業（非求職）における特徴：第1判別関数の結果から導かれることは、配偶者が家計負担をしており、現在、労働条件についての問題を感じておらず、家族について問題を感じている人が、「セミナー・ガイダンス」を希望する傾向である（図表4-36）。求職を希望していない無業層のうち、配偶者が家計負担をしているケースは、経済的な面では重大な問題を抱えていない状況にあると推察される。その中で、家庭内や家族について問題を抱えている人が「相談・カウンセリング」を希望せず（負の値となっている）、多人数型のセミナーやガイダンスの方を求めているのは興味深い。つまり、この無業層では、職業生活や経済面での問題を抱えている場合に限り、「相談・カウンセリング」の需要に結びつくのではないかと考えられる。

無業（求職中）における特徴：第1判別関数に示されていることは、現在、職業の向き不向きに問題を感じている人が、「セミナー・ガイダンス」を希望せず、「テスト受検」や「相談・カウンセリング」を希望する傾向にあることである（図表4-37）。自分がどの職業に向いているかわからない人が「テスト受検」を通じて今後の方向性を知りたいということは、キャリアガイダンスの一般的な流れで考えれば、極めて妥当な結果である。多人数型のセミナーやガイダンスを避け、テスト受検や個別相談を希望するという方向性は、前述の非求職の無業層とは逆の方向性である。同じ無業層でも、求職中か否かという違いにより、希望するサービスの方向性が異なることが示されたのは興味深い。

図表4-36 希望するサービスと各変数との関連(非求職の無業)

(左図:標準化正準判別係数・右図:グループの重心の関数)

		判別関数			判別関数
		1			1
現状・ 問題	労働条件に問題 ^(※)	-0.677	情報入手	.086	
	職業能力向上の方法に 問題 ^(※)	-.254	テスト受検	-.247	
	家族に問題 ^(※)	.548	相談・カウンセリング	-.455	
属性	配偶者が家計負担 ^(※)	.985	セミナー・ガイダンス	3.742	

(※)はダミー変数として投入。

図表4-37 希望するサービスと各変数との関連(求職中の無業)

(左図:標準化正準判別係数・右図:グループの重心の関数)

		判別関数			判別関数
		1			1
現状・ 問題	職業の向き不向きに問 題 ^(※)	1.088	情報入手	-.477	
	深刻な悩み ^(※)	-.131	テスト受検	.621	
属性	卒業後正社員 ^(※)	.138	相談・カウンセリング	.435	
			セミナー・ガイダンス	-.628	

(※)はダミー変数として投入。

求職中（主婦＋無業）における特徴：第1判別関数を検討すると、現在、職業の向き不向きに問題を抱えており、子どもの数が多く、配偶者が家計負担している人は、「セミナー・ガイダンス」を選ばない傾向があり、逆に「テスト受検」や「相談・カウンセリング」の方を希望する傾向があった（図表4－38）。ここには二つのニーズが混在していると考えられる。一つは、職業の向き不向きがわからない人が「テスト受検」を希望するケース、もう一つは、配偶者が家計負担しているが自分自身も仕事をしたいと思っている人で、育児と両立できる、自分に合った仕事を探そうとして「相談・カウンセリング」に向かうケースである。特に後者は求職中の主婦層のニーズに近いものと推察される。

図表4－38 希望するサービスと各変数との関連(求職中(主婦＋無業))

(左図:標準化正準判別係数・右図:グループの重心の関数)

		判別関数		
		1	判別関数	
			1	
現状・問題	職業の向き不向きに問題 ^(※)	1.046	情報入手	-.255
過去経験	家庭関連(子ども成長時)でのサポート必要性 ^(※)	.189	テスト受検	.358
属性	配偶者が家計負担 ^(※)	.234	相談・カウンセリング	.294
	子どもの数	.346	セミナー・ガイダンス	-.705

(※)はダミー変数として投入。

(4) 小括

本節では、キャリアガイダンスの潜在的な利用者によるニーズや、将来的な必要性につながりやすい潜在的なキャリアガイダンス・ニーズについて分析を行った。本項では、利用してみたい支援やサービス、かけられる費用と時間、希望するキャリア支援・サポートの諸条件、希望するサービスの背景要因という四点についてまとめる。

第一に、利用してみたい支援やサービスでは「インターネットでの情報収集」に最も人気が集まった。「キャリアに関する情報入手」「テスト受検」「相談・カウンセリング」「セミナー・ガイダンス」という4つの代表的なガイダンスサービスの中で、最も希望が多く集まったのが情報入手(約45%)であった。続いてテスト受検(30%程度)、相談(15～20%程度)、セミナー(10%弱)という結果になった。対象層別では、特に求職者層(主婦と無業)において、有料無料を問わずどのサービスでも利用したいという積極的な回答傾向がみられた。

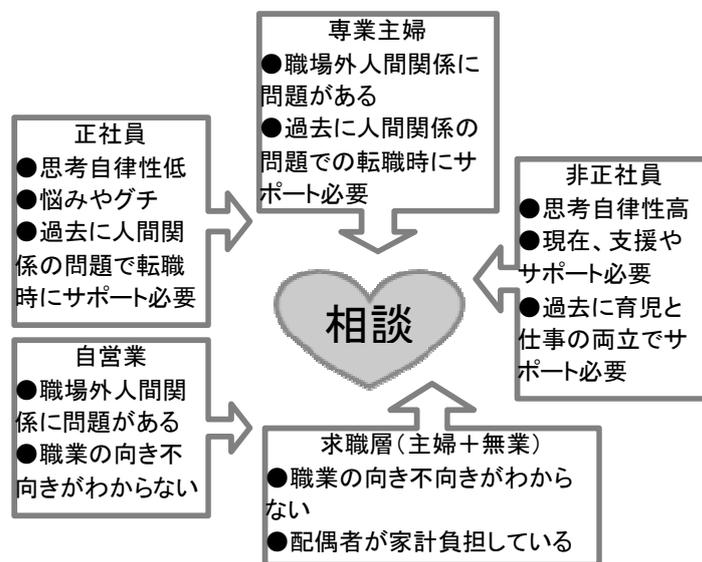
第二に、ガイダンスサービスにかけられる費用と時間について検討した。まず費用の面では「0円」でのサービス提供を希望する回答が多くみられたことが特徴的であった。正社員では約25%程度、他の層では3割以上、特に無業層では半数以上がそのように回答していた。

各サービスで比較すると、かけられる費用の高い順から、個別相談>情報収集>テスト受検となっており、特にテスト受検については、正社員と自営業を除く層で平均値が1000円以下を希望していた。サービスにかけられる時間に関しては、個別相談で40~50分程度、テスト受検で35~40分程度、情報収集で45分前後となっていた。自営業はかけられる時間が最も短く、逆に求職中の無業層では全体的に60分以上という回答傾向がみられた。

第三に、希望するキャリア支援・サポートの諸条件について検討した。まず場所では「ハローワーク」「自宅」が多く、時間は1回あたり「30分~1時間以内」、曜日や時間帯を気にしない割合が高く、細切れの時間よりしっかりと確保された時間での実施を希望する傾向があった。期間は1回のみが3割程度で、週1回の1ヶ月間継続というタイプも人気があった。一方、求職者の場合は、一定期間内に連日出向くなどの集中的なサービスも希望していた。人数は1人でのサービスを7~8割の方が求めており、主婦の一部ではグループワークの希望もあった。支援の提供者は「公的機関のカウンセラー」「ハローワーク職員」、正社員の場合は民間企業のカウンセラーからの提供を望んでいた者も多かった。

第四に、正準判別分析を使って、各対象層でどのような特徴をもった人がどのサービスを選びやすいのかという特徴を検討した。様々な分析結果があったが、ここでは主に、「相談」を希望する場合を軸にまとめてみた(図表4-39)。

図表4-39 各対象層で「相談・カウンセリング」を希望する人の特性(まとめ)



まず、正社員の場合、キャリアに関する思考の自律性が低く、過去に人間関係の問題で転職した際にサポートが必要だと思った人や、現在悩みがグチがある人が「相談」に結びつきやすい。非正社員では、逆にキャリアに関する思考の自律性が高く、過去に育児と仕事との両面でサポートが必要だった人で、現在も支援やサポートを必要としている人が「相談」

に結びつきやすい。自営業では、職場外人間関係に問題があったり、職業の向き不向きに問題を感じている人が「相談」に結びつきやすい。専業主婦では、過去に人間関係の問題で転職した際に支援が必要だった人で、職場外人間関係の問題があると「相談」に結びつきやすい。求職層（主婦と無業）では、職業の向き不向きの問題や、配偶者が家計負担している場合で「テスト受検」や「相談」を選びやすい。非求職の無業層は「相談」に大きくつながる特徴が現れていなかったためこの図には載せていないが、労働条件等の問題や経済面での問題が生じている場合に「相談」に結びつきやすいと考えられる。

4. キャリアガイダンス・サービスのニーズと今後の活用へ向けて

これまでの議論で、キャリアガイダンスに関する顕在化されたニーズと、潜在的なニーズの両面について、調査対象層別に検討してきた。最後に本節では、ニーズがあっても利用にまで至らない理由、すなわち利用にとって障害となるものについて、調査結果の分析を通して明らかにし、最後に本章全体のまとめを行う。

(1) キャリアガイダンス・サービスの利用にあたっての障害

本節では、「支援やサービスを受けるにあたって難しいのはどういう点ですか」（問32）への回答を調査対象層別に検討することで、利用上困難な点を明らかにしてみたい。

図表4-40では、問32への回答（1～5の5段階評定値で、「そう思う」=5、「そう思わない」=1として反転済み）の平均値について、正社員の値からみて他の調査対象層間との値を比較したものである。

調査対象層全体を通じて最も回答が集まったのは、「費用がかかる」という部分であった。個別にみてゆくと、「魅力的な支援やサービスがない」という回答も比較的多い。「時間の都合がつかない」に対しては、正社員の回答が、他の特に非就業者層（主婦、無業）と比較して高い傾向にある。「職場の理解がない」についても同様に、正社員が高く回答している。「支援やサービスを受けても役に立たない」については、自営業、無業層でやや高く現れている点が特徴的である。「費用がかかる」については、特に非正社員、無業層などで回答が集まっていた。「どんな支援やサービスを受ければ良いかわからない」の回答では、求職中の専業主婦と無業層が高く回答している。「場所が遠い」に関しては、専業主婦（求職状況を問わず）の回答が高くみられた。「必要性を感じない」については、自営業が最も高く、求職中の人（主婦、無業）や非正社員では低く回答していた。

以上の結果を整理すると、まず正社員の場合、サービスを利用する時間上の都合や職場の理解がネックになるということ、非正社員の場合は費用面と、サービスを受けられる場所の遠さの問題が明らかになった。自営業の場合は、そもそも必要性を感じない人も多いが、必要とする場合でも自分に合った支援やサービスを見つけることの難しさを回答していた。専

業主婦の場合、サービスそのものというより、サービスが提供されている場所の遠さに問題を感じていた。求職中の専業主婦の場合は、場所の遠さのほか、自分に合った支援やサービスを見つけにくい状況が明らかとなっている。無業層の場合、求職中かどうかに関わらず、費用面の問題や、自分に合った支援やサービスを見つけにくかったり、魅力的なものがない点を問題だと感じている。このように、各対象層で感じている困難さの内容とレベルは異なる。

図表4-40 支援・サービスを受けるにあたって困難な点(5段階評定の平均値)

	正社員	非正社員	自営業	専業主婦 (非求職)	専業主婦 (求職中)	無業 (非求職)	無業 (求職中)	その他	合計
魅力的な支援やサービスがない	3.75	3.75	3.75	3.62	3.87	3.82	3.98	3.89	3.75
時間の都合がつかない	3.54	3.40	3.27	3.21	3.09	2.82	2.57	3.15	3.40
職場の理解がない	3.22	2.91	2.33	2.63	2.80	2.71	2.62	2.84	2.98
支援やサービスを受けても役に立たない	3.34	3.37	3.46	3.17	3.14	3.41	3.43	3.42	3.33
費用がかかる	3.87	3.93	3.85	3.82	3.90	3.90	3.93	3.98	3.88
どんな支援やサービスを受ければ良いのかわからない	3.75	3.84	3.54	3.82	3.96	3.88	4.04	3.67	3.77
場所が遠い	3.17	3.32	3.23	3.42	3.60	3.47	3.36	3.51	3.26
必要性を感じない	3.21	3.01	3.47	3.30	2.84	3.10	2.49	3.24	3.18

注：網かけは正社員の列を基準とした場合に、5%水準で有意差があるカテゴリを示す。

次に、以上の傾向の背景についてさらに詳細に調べるため、各困難さを従属変数としたステップワイズ法による重回帰分析を行った。

図表4-41は、「魅力的な支援やサービスがない」についての分析結果である。この中で注目すべき結果は、正社員と専業主婦層（求職中・非求職両方）について、キャリアに対する問題を感じている程度（問24）が高いほど「魅力的な支援やサービスがない」と回答している点である。つまり、キャリアに対する問題意識が低い頃は気づかないのだが、いったん問題意識が生まれたり、真剣に考え始めるようになると、利用したい支援やサービスがないと気づくのではないかと推察される。なお、非正社員や自営業で「支援サポートの必要性」が高まるほど、魅力的な支援サービスがないと感じるのも同様の背景だと推察される。

次に、「時間の都合がつかない」（図表4-42）に関する結果を検討する。先の図表4-40では正社員の平均値が他の対象層よりも高いことが示されていたが、この分析においても、正社員で、キャリアに対する問題意識が高く、平均労働時間が長い人ほど、「時間の都合がつかない」と回答していることがわかる。非正社員、自営業においても、平均労働時間が長い人には同様の回答傾向があったことがうかがえる。主婦層の場合は、子どもがいることや、子どもの人数が多いことも、「時間の都合がつかない」背景にあると考えられる。

図表4-41 「魅力的な支援やサービスがない」に対する重回帰分析(対象層別)

	正社員		非正社員		自営業		専業主婦 (非求職)		専業主婦 (求職中)		無業 (非求職)		無業(求職中)		求職中 (主婦+無業)	
	β	sig.	β	sig.	β	sig.	β	sig.	β	sig.	β	sig.	β	sig.	β	sig.
ニーズ 関連	キャリア問題認識	.176	**				.110	*	.348	**					.220	**
	支援サポートの必要性			.189	**	.199	**					.366	**	.156	*	
	具体的な行動の程度							.158	**					.166	*	
	求人情報以外の情報 の必要性														-.146	*
	相談拠出可能費用 情報拠出可能時間	.068	**					-.161	**							
現状	テスト拠出可能時間				.203	**										
	職業生活への満足度 話す人数(職場外)				.136	*	-.096	*			-.435	**				
過去経験	職業生活で色々な 経験 ^(※)			.095	*											
	性別 ^(※) (男=1,女=2)	.075	**													
属性	年齢	.070	**													
	世帯年収							.120	*							
	従業員数			.115	*	-.163	**									
	自分が家計負担 ^(※)			.138	**											
	学校の知識の有益さ	-.048	*					-.102	*							
思考特徴	本人の能力	.054	*													
	本人の努力									-.360	*	-.312	**			
	周囲の環境 運	.048	*		.147	**		.091	*							
	R^2	.055		.112		.102		.105		.150		.489		.231		.148

** $p < .01$, * $p < .05$ (※)はダミー変数として投入。

図表4-42 「時間の都合がつかない」に対する重回帰分析(対象層別)

	正社員		非正社員		自営業		専業主婦 (非求職)		専業主婦 (求職中)		無業 (非求職)		無業(求職中)		求職中 (主婦+無業)	
	β	sig.	β	sig.	β	sig.	β	sig.	β	sig.	β	sig.	β	sig.	β	sig.
ニーズ 関連	キャリア問題認識	.109	**													
	支援サポートの必要 性	.079	**	.189	**			.177	**							
	具体的な行動の程度			-.115	*											
	相談拠出可能時間	-.078	**	-.125	**											
現状	転職希望	-.063	*							-.404	*					
	職業生活への満足度							.211	**					.205	**	
過去経験	転職回数											.305	*	.137	*	
	職業生活で色々な 経験 ^(※)			.112	*											
属性	性別 ^(※) (男=1,女=2)	.082	**	.119	*	.219	**									
	年齢	-.073	**	-.106	*			-.162	**	-.195	*				-.189	**
	子どもの有無 ^(※)	.080	**	.144	**			.348	**						.330	**
	子どもの数								.258	**						
	個人年収	-.070	**													
	世帯年収					-.108	*	-.167	*						-.177	**
	親が家計負担 ^(※)							.105	*			.362	*			
思考特徴	平均労働時間	.115	**	.174	**	.243	**									
	思考タイプの自律性	-.084	**			-.133	*									
	本人の努力で決まる	.064	**													
	周囲の環境で決まる 運	.047	*							.186	*				.128	*
R^2	.074		.111		.086		.238		.204		.270		.093		.190	

** $p < .01$, * $p < .05$ (※)はダミー変数として投入

次の「職場の理解がない」に関しては、就業者層のみで分析した(図表4-43)。正社員の場合、現在支援サポートの必要性を感じていて、職業生活に不満があり、転職希望の人にこのような回答傾向がみられる。非正社員の場合は、現在支援サポートの必要性を感じている人で、配偶者が家計負担をしていない(すなわち、自らが家計負担を行う必要がある)人にこの傾向がある。自営業では、支援サポートの必要性を感じていて、思考タイプの自律性が低い人にこのような回答傾向がみられるのが特徴的である。

図表4-43 「職場の理解がない」に対する重回帰分析(対象層別・就業層のみ)

		正社員		非正社員		自営業	
		β	sig.	β	sig.	β	sig.
ニーズ 関連	キャリア問題認識	.095	**				
	支援サポートの必要性	.129	**	.174	**	.173	**
	情報抛出可能時間					-.163	**
現状	転職希望	.110	**				
	職業生活への満足度	-.118	**				
過去経験	卒業後無職 ^(※)	-.044	*				
	特定分野で一つの経験 ^(※)	.057	**				
	特定分野で色々な経験 ^(※)					.118	*
属性	最終学歴	-.043	*				
	個人年収					.177	**
	配偶者が家計負担 ^(※)			-.117	*		
思考特徴	思考タイプの自律性 運で決まる	.071	**			-.166	**
	R^2	.133		.053		.125	

** $p < .01$, * $p < .05$ (※)はダミー変数として投入

図表4-44 「支援やサービスを受けても役に立たない」に対する重回帰分析(対象層別)

		正社員		非正社員		自営業		専業主婦 (非求職)		専業主婦 (求職中)		無業 (非求職)		無業(求職中)		求職中 (主婦+無業)	
		β	sig.	β	sig.	β	sig.	β	sig.	β	sig.	β	sig.	β	sig.	β	sig.
ニーズ 関連	キャリア問題認識							.155	**								
	具体的な行動の程度 相談抛出可能費用	-.072	**			-.132	**										
	テスト抛出可能時間	-.084	**							-.447	**						
現状	職業生活への満足度	-.128	**	-.110	*					-.622	**						
	話す人数(職場外)									-.296	*						
過去経験	卒業後正社員 ^(※)					.144	*			.164	*						
属性	性別 ^(※) (男=1,女=2)	.072	**									-.242	*	-.247	**		
	最終学歴	.077	**			-.141	*										
	従業員数			.153	**												
思考特徴	配偶者が家計負担 ^(※)	.052	*														
	学校の知識の有益さ	-.077	**						-.266	**					-.175	**	
	本人の努力で決まる 運で決まる	.086	**	-.103	*							-.389	**	-.147	*		
	R^2	.057		.067		.037		.024		.077		.535		.229		.114	

** $p < .01$, * $p < .05$ (※)はダミー変数として投入

次に、「支援やサービスを受けても役に立たない」(図表4-44)に関しては、無業層の反応に注目すべきであろう。求職中の無業層では、「人生は本人の努力で決まる」と思っていない男性にこのような回答傾向がある。求職活動をしていない無業層の場合、職業生活への満足度が低く、普段から話す相手の人数が少なく、テスト受検に対して時間を割きたくないと思っている人にこのような回答が多いことが示唆される。全般的にみると、職業生活に不満があり、人生において過去の努力が報われるという考えに否定的で、ガイダンスサービスに対する時間も費用も結果として割きたくない、という人にこのような回答傾向がみられると推察される。

「費用がかかる」(図表4-45)の回答傾向では、非就業層である専業主婦と、無業層に着目した。非求職の専業主婦の場合、キャリアに対する問題意識は高いものの、年収が低く、個別相談に出せる金額も低い層がこのような回答をしている。非求職の無業層では、職業生活に不満があり、普段から話す人数が少なく、自分が家計負担をしていない人に、このような回答傾向がある。全般的にみると、各種ガイダンスサービスに対して拠出可能な金額が低い人や、年収が低い人に回答が集中していると推察される。

「どんな支援やサービスを受ければ良いのかわからない」について、まず全対象層に共通してみられる傾向は、キャリアに対する思考タイプの自律性が低い点である(図表4-46)。正社員の場合はさらに、問題意識や支援の必要性が高いが、具体的な行動に移せていない人にこの傾向がある。専業主婦の場合、子どもも配偶者もいて、支援サポートの必要性を感じているが、ガイダンスサービスに対して費用を出しにくい状況にあり、周囲の環境に流されて人生を送ってきた個人にこのような回答傾向がある。求職者層の場合、求人情報の必要性があり、比較的長時間の個別相談を望んでいて、年齢が若い層にこのような回答傾向がある。

図表4-45 「費用がかかる」に対する重回帰分析(対象層別)

	正社員		非正社員		自営業		専業主婦 (非求職)		専業主婦 (求職中)		無業 (非求職)		無業(求職中)		求職中 (主婦+無業)	
	β	sig.	β	sig.	β	sig.	β	sig.	β	sig.	β	sig.	β	sig.	β	sig.
ニーズ 関連	キャリア問題認識	.124	**				.174	**								
	支援サポートの必要性										.270	*				
	具体的な行動の程度	-.045	*													
	相談拠出可能費用	-.075	**					-.228	**							
	相談拠出可能時間							.170	**							
	情報拠出可能費用												-.349	**		
現状	職業生活への満足度										-.412	**				
	話す人数(職場外)										-.538	**				
過去経験	卒業後非正社員 ^(※)	-.054	*													
	色々な分野で色々な 経験 ^(※)			.139	**											
属性	年齢	.060	*													
	配偶者の有無 ^(※)			.111	*			.176	**							
	最終学歴	-.061	**			-.145	*									
	個人年収	-.181	**													
	世帯年収			-.211	**			-.161	**							
	従業員数	.071	**													
	自分が家計負担 ^(※)										-.478	**				
	自分と配偶者で半々 負担 ^(※)	-.056	*													
思考特徴	思考タイプの自律性	-.057	*			-.165	**									
	学校の知識の有益さ			-.131	**										.135	*
	本人の努力で決まる					-.123	*									
	周囲の環境で決まる	.096	**					.137	**							
R^2	.088		.085		.082		.172		—	.554		.175		.018		

** $p < .01$, * $p < .05$ (※)はダミー変数として投入

次に、「場所が遠い」に関する回答傾向では、主婦層の結果が特徴的である(図表4-47)。専業主婦の場合、支援サポートの必要性を感じており、求人情報以外のキャリア情報が必要な人で、最終学歴の低い層ほどこのような回答が多かった。求職中の主婦の場合は、自分が家計負担をしていて、子どもの数が多く、求人情報を必要としている個人にこの傾向があった。全体として、支援サポートの必要性は感じており、必要なガイダンスサービスへの出費も惜しまないが、子どもが多いなど、自由な行動を起こす上で制約があり、結果として行動を起こしにくくなっているのではないかと示唆される。

図表4-46 「どんな支援やサービスを受ければ良いのかわからない」に対する
重回帰分析(対象層別)

	正社員		非正社員		自営業		専業主婦 (非求職)		専業主婦 (求職中)		無業 (非求職)		無業(求職中)		求職中 (主婦+無業)	
	β	sig.	β	sig.	β	sig.	β	sig.	β	sig.	β	sig.	β	sig.	β	sig.
キャリア問題認識	.098	**											.352	**		
支援サポートの必要性	.074	**	.149	**			.234	**								
具体的な行動の程度	-.140	**	-.165	**							-.585	**				
求人情報の必要性															.162	*
相談抛出可能時間	.074	**													.529	**
情報抛出可能費用							-.139	**								
情報抛出可能時間															-.388	**
転職希望					.223	**										
話す人数(職場外)	-.071	**														
卒業後無職 ^(※)									-.176	*						
転職回数	-.081	**														
特定分野で一つの経験 ^(※)															.136	*
色々な分野で色々な経験 ^(※)					-.169	**										
性別 ^(※) (男=1,女=2)	.073	**														
年齢	-.039	*													-.132	*
子どもの有無 ^(※)							.094	*								
子どもの数											.458	**				
配偶者の有無 ^(※)							.112	*								
最終学歴											-.265	*				
個人年収	-.061	*														
自分が家計負担 ^(※)			-.102	*												
親が家計負担 ^(※)										.320	**					
思考タイプの自律性	-.206	**	-.134	**	-.273	**	-.275	**	-.236	**	-.415	**	-.463	**	-.246	**
学校の知識の有益さ			-.119	**							-.397	**				
本人の能力で決まる													.249	*		
本人の努力で決まる								.215	**						.243	**
周囲の環境で決まる	.046	*					.099	*	.240	**			-.339	**		
運で決まる	.051	*														
R^2	.167		.097		.177		.230		.167		.741		.438		.227	

** $p < .01$, * $p < .05$ (※)はダミー変数として投入

図表4-47 「場所が遠い」に対する重回帰分析(対象層別)

	正社員		非正社員		自営業		専業主婦 (非求職)		専業主婦 (求職中)		無業 (非求職)		無業(求職中)		求職中 (主婦+無業)	
	β	sig.	β	sig.	β	sig.	β	sig.	β	sig.	β	sig.	β	sig.	β	sig.
支援サポートの必要性	.101	**	.134	**	.183	**	.210	**			-.390	*				
具体的な行動の程度			-.183	**												
求人情報の必要性									.268	**					.195	**
求人情報以外の情報の必要性							.116	*					-.276	**		
相談抛出可能費用															.213	*
相談抛出可能時間	-.059	*														
情報抛出可能費用													-.751	**	-.330	**
情報抛出可能時間	.072	**														
テスト抛出可能費用									.148	*			.468	**		
卒業後非正社員 ^(※)					-.145	*							.481	**		
色々な分野で一つの経験 ^(※)			-.119	**												
性別 ^(※) (男=1,女=2)	.102	**			.139	*										
年齢													-.293	**		
子どもの数	.073	**	.106	*					.186	*					.256	**
配偶者の有無 ^(※)							.097	*								
最終学歴	-.057	*	-.105	*			-.167	**					-.355	**		
個人年収	-.152	**														
自分が家計負担 ^(※)	.055	*							.190	*						
親が家計負担 ^(※)										.284	*					
思考タイプの自律性					-.167	**										
学校の知識の有益さ											-.733	**				
本人の能力で決まる					-.138	*										
周囲の環境で決まる			.103	*												
運で決まる	.057	*							.221	**					.154	*
R^2	.073		.087		.146		.098		.207		.505		.451		.143	

** $p < .01$, * $p < .05$ (※)はダミー変数として投入

最後に、「必要性を感じない」については、全対象層を通じて最も大きな影響を示しているのがキャリアに対する問題意識や支援サポートの必要性がないことである（図表4-48）。したがって、ガイダンスサービスにかけられる費用や時間も、必要性の高い人と比べて相対的に低くなっている。その他に現れている特徴として、正社員の場合は、特定分野で一つの職業経験を積むという、入社から比較的単線的なキャリアを歩んできた人にその傾向があることである。自営業では、職場内で話す人数が多い人の方が必要性を感じにくい傾向がみられている。求職中の無業層の中では、年齢の若い人ほどこのような傾向がみられているのも特徴的である。

図表4-48 「必要性を感じない」に対する重回帰分析(対象層別)

	正社員		非正社員		自営業		専業主婦 (非求職)		専業主婦 (求職中)		無業 (非求職)		無業(求職中)		求職中 (主婦+無業)	
	β	sig.	β	sig.	β	sig.	β	sig.	β	sig.	β	sig.	β	sig.	β	sig.
キャリア問題認識	-.116	**	-.218	**	-.196	**	-.115	*	-.227	**					-.169	*
支援サポートの必要性	-.322	**	-.378	**	-.269	**	-.262	**			-.322	*	-.498	**	-.240	**
二一ズ 関連																
具体的な行動の程度	-.059	**														
求人情報以外の情報の 必要性	-.128	**	-.107	**	-.116	*									-.154	*
相談提出可能費用															-.143	*
相談提出可能時間	-.080	**			-.154	**	-.152	**	-.332	**						
情報提出可能費用			-.132	**												
情報提出可能時間	-.049	*			-.135	*										
テスト提出可能時間	-.081	**									-.414	**				
現状																
転職希望					-.122	*	-.149	**								
職業生活への満足度							.111	*								
話す人数(職場内)					.159	**										
過去経験																
特定分野で一つ ^(※)	.061	**														
属性																
年齢													-.226	*		
性別 ^(※) (男=1,女=2)							.102	*								
従業員数	.041	*														
思考特徴																
思考タイプの自律性	.057	**														
本人の能力で決まる	.038	*											-.285	*		
本人の努力で決まる															-.123	*
周囲の環境で決まる							.099	*							-.222	**
運で決まる	.043	*													.167	*
R^2	.341		.377		.421		.285		.191		.372		.354		.253	

** $p < .01$, * $p < .05$ (※)はダミー変数として投入

これまで、ガイダンスサービスを利用する上での障害や困難さについて検討してきたが、これらの分析結果は以下のようにまとめられる。

第一に、費用面での困難さ（「費用がかかる」）が深刻な問題としてとらえられていたことである。全体の中で最も困難さの平均値が高かったのは「費用がかかる」ことであった。特に非正社員や無業層ではこの回答傾向が強かった。詳細を検討すると、ガイダンスサービス全体に対して提出できる金額が低く、年収も低い層がこの傾向にあった。

第二に、支援やサービスは必要なのだが「場所」がネックとなっているために受けられないという問題があり、その中心は主婦層であった。支援やサポートが必要で、サービスに対する出費もある程度は可能だが、子どもの数が多いなど、自由な活動に制約がある個人にこのような回答傾向があった。

第三に、魅力的な支援やサービスがないという回答の背景では、キャリアに対する問題意識やサポートの必要性を強く感じているほどその回答割合が高まる傾向がみられた。特に、

求職中の無業層でこの回答が高くみられたことは、必要性の高さに対して受けてみたいと思えるようなガイダンスサービスが少ないことを暗に示している。さらに無業層では「支援やサービスを受けても役に立たない」という回答も多く、さらなるサービスの改善が必要となるろう。

第四に、特に正社員の場合、時間の都合をつけることと、職場の理解の有無がサービスの利用へ向けた鍵となる点である。平均労働時間が長い人ほど時間の都合がつかない傾向があり、非正社員、自営業でも同様の傾向がみられた。職場の理解がないと感じる人は、職業生活に不満があり、転職希望の人に多い傾向があった。

第五に、ガイダンスサービスの必要性を感じない人は、自営業のほか、正社員で特定分野で一つの職業に就いてきたという単線的なキャリアを歩んできた人にこのような回答傾向があった。求職層でも、年齢の若い無業層ほどこのような傾向があった。

(2) 本章のまとめ

本章では、正社員等といった現在の職業上の立場とキャリアガイダンス・ニーズとの関連について、現在顕在化しているニーズと、潜在的なニーズ、さらにガイダンスサービスを受ける上での困難さや障害となるものについて、それぞれ検討を行ってきた。最後に、これまでの分析結果を整理し、今後のキャリアガイダンス・サービスの展開やあり方に対する知見を四点提示してみたい。

まず、キャリアに対する問題認識について、求職者層と低年収層が最も切実であり、支援の必要性も高いことが明らかになった。ただし、非正社員も問題を深刻に感じている割合が高く、同様にサポートが必要と考えられる。具体的には「将来全般」についての問題を感じている割合が高いことから、その個人のキャリア展望や道筋をつけられるような長期的視野のガイダンスサービスが必要ではないかと考えられる。なお、低年収層の場合、就職に関する問題だけでなく、家族や健康など、従来のキャリアガイダンスの範疇から外れる内容についても深刻な問題を抱えているケースがあった。ワンストップでの支援提供ができれば理想的だが、それが無理だとしても、別の分野の支援にすぐつながるような体制作りが大切ではないかと思われる。

次に、キャリアの問題に対して具体的な行動がとれるかどうかは、自力で計画をたてられるかどうか大きく依存する点である。非求職層（主婦や無業）では、求職層と比べてキャリアに関する具体的な行動を起こしていない人が多いが、特に無業の非求職層の場合、キャリアについて深刻な問題を抱えているケースもあり、本来は早めに行動に移した方がよい人もいる。その場合、キャリアについて「何から計画をたてればよいかわからない」と考える個人も多いことから、キャリアについて自律的な問題解決をサポートできるような支援が今後必要ではないかと思われる。

次に、実際のサービスのあり方について、「0円」のサービスが大多数から望まれているこ

とに留意すべきである。その他にも、サービス提供地域の偏在の問題を解消すること（主に主婦向け）、時間の融通がきくサービスであること（正社員等の就業者向け）にも留意すべきである。また、サービスの利用には、すき間時間を活用するよりも、しっかりと時間を確保した上での利用が望まれていることから、中途半端な時間でのサービスよりも、内容の濃いサービスが望まれているのではないかと考えられる。「相談・カウンセリング」を希望する人の背景をみると、図表4-39に示したように、各対象層で異なる要因があることが明らかとなった。ひとくくりに「相談」といっても、来所者の置かれた立場や問題により様々なニーズがあることを、サービスの提供者側は認識すべきだと思われる。

最後に、サービスを利用する上でのネックとなるのが、非就業層では費用、主婦層では場所、正社員では時間の都合や職場の理解という面があった。一方、求職層など、キャリアの問題に対して緊要度の高い層において、魅力的な支援やサービスがないことへの不満もあった。本来必要としている層に必要なサービスが行き届くよう政策的な配慮について検討することが必要な部分もあるのではないかとと思われる。